授業科目	カレッ? 1〕	ジイベン	<b>/</b> ト (トレ	ž	担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・第	長中		必修	・選択区分	必修	単位数		
授業形態				į	受業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	イベン	トを楽し	,く成功させる為	りの方法	をディスカッ	ションを通じ企画	する事を目的	りとする。	
到達目標	誰もがシ	楽しめる	るイベントを目指	す。					
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料を配布。								
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・	レポー	-	20		· ► 20%				
評価基準		7.00			出物 20% D他 60%(受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%)				
	提出物		20	C 07  E					
	その他	上。加斯	60   お労機器等を活用	11 +> 45	こ准めていき	ます。、人との信頼	1月12 た筑ノ	ナカのソールト	
履修上の 留意事項	して『:	コミュニ	ニケーション』は	はとても	大切です。社	会人に向けての大			
	て、真質	列に目を	<u>分と向き合ってみ</u> 履修主題	ましょ	<u>つ。</u>	履修内	7 突		
履修主題・ 履修内容	1	カレッ		:	イベントの内容説明				
	2	役割分			執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定				
	3	リハー			各種目のルール、及び実践確認				
	4	イベン	 /ト実施		スポーツ大会				
	5	振り返	<u>ร</u> ีเว		レポート作成、提出				
	6	カレッ		?	イベントの内容説明				
	7	役割分	}担		執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定				
	8	リハー	-サル		各種目のルー	・ル、及び実践確認	j,		
	9	イベン	/ト実施		スポーツフェ	スティバル			
	10	振り返	ξIJ		レポート作成	た、提出			
	11	カレッ		3	イベントの内	容説明			
	12	役割分	 }担		執行部、委員	、イベント参加者	f、展示担当	者の決定	
	13	リハ-	-サル		執行部、委員	、イベント参加者	f、展示担当	者 当日準備	
	14	イベン	/ト実施		学園祭				
	15	振り返	<u>ڏن)</u>		レポート作成	は、提出			

授業科目	カレッジイベント 〔トレ1〕	担当教員	田中いぶき	ŧ	
12 * 17 C	70771 (101)	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務経験			
		小工物大			

授業科目	コミュ:	ニケーシ	vョン A〔トレ		担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・第	<b>集中</b>		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	٦٤ء:	ニケーシ	ノョンを通じて、	自分自	目身の課題を抽	出し、克服する。			
到達目標	社会で	社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上及び志向となることを目指す。							
テキスト・ 参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)								
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・	レポー				<b>-</b> ► 20%				
評価基準	小テス	<b>Ͱ</b>			勿 20% 5 60%(受請	整数 妥諾能度等	€30% 担当	(所目 30% )	
	提出物			C 07 II	3 60%(受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%)				
	その他	人。油脂	   	11. <i>t</i> > <i>t</i>	ぶら進めていき	ます。、人との信頼	1問仏を筑く	ためのツールと	
履修上の 留意事項	して『	コミュニ		とても	大切です。社	会人に向けての大			
履修主題・			履修主題			履修内	內容		
履修内容	1	П П	ュニケーションと	は?	『自分を知ってもらおう!』 自己紹介				
						『自分を知ってもらおう!』 問答ゲーム"			
	2	בוב	ュニケーションと	は?	問答ゲーム"	-			
	2		1ニケーションと 1ニケーションと		問答ゲーム" 『自分を知っ 社会人として	てもらおう!』 「必要なコミュニケ	「ーションと	は?	
		コミュ		は?	問答ゲーム" 『自分を知っ 社会人として 『自分を知っ	てもらおう!』 「必要なコミュニケ 「てもらおう!』		は?	
	3	] ] ] ]	1ニケーションと 1ニケーションと 1ニケーションス	は?	問答ゲーム" 『自分を知っ 社会人として 『自分を知っ 伝える、褒め 『会話を上述	でもらおう!』 「必要なコミュニク でもらおう!』 」る、考えを引き出 しよう!』	はす		
	3	コミュコミュの向上	1二ケーションと 1二ケーションと 1二ケーションス こ 1二ケーションス	は? は? キル	問答ゲーム" 『自分を知って 社会人分を知って 伝える話を上述 第一年 はいます はいます また はいます また はいます また はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	でもらおう!』 「必要なコミュニク でもらおう!』 うる、考えを引き出 しよう!』 しくするためには /	ぱす 選き上手に	なるためには	
	3 4 5	コミュの向上コミュの向上	1二ケーションと 1二ケーションス 1二ケーションス こ 1二ケーションス こ	は? は? キル キル	問答がった。 では、	でもらおう!』 「必要なコミュニク でもらおう!』 」のる、考えを引き出 しよう!』 とくするためには / むよう!』 しよう!』	はす   聞き上手に  関係を築く	なるためには	
	3 4 5 6	コミュの向上コの向上コの向上	1二ケーションと 1二ケーションス 1二ケーションス こ 1二ケーションス こ	は? は? キル キル	問答するとなる。 では、	でもらおう!』 「必要なコミュニク でもらおう!』 」のる、考えを引き出 しよう!』 」とするためには/ 「しよう!』 こるためには/信頼	はす   聞き上手に  関係を築く	なるためには	
	3 4 5 6 7	コ コ コ コ コ の コ の コ の コ の ロ の ロ の ロ の の 日 の 日 か 付 他 者	1 二ケーションと 1 二ケーションス 1 二ケーションス 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス	は? は? キル キル	問答するとなる。 では、	でもらおう!』 「必要なコミュニク でもらおう!』 しる、考えを引き出しよう!』 しくするためには/ ししよう!』 こるためには/信頼 しよう!』 に関を選ぶためにに	はす   聞き上手に  関係を築く	なるためには	
	3 4 5 6 7 8	コココのコのコの対他者対し	1 二ケーションと 1 二ケーションス 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ 5 力を磨こう	は? は? キル キル	問答 学 学 学 学 会 会 会 会 会 会 会 会 会 会 の 会 の 会 の の の の の の の の の の の の の	でもらおう!』 「必要なコミュニク でもらおう!』 しる、考えを引き出しよう!』 しくするためには/ ししよう!』 こるためには/信頼 しよう!』 に関を選ぶためにに	はす   聞き上手に  関係を築く	なるためには	
	3 4 5 6 7 8 9	コココのコのコの対対対対対対対	1 二ケーションと 1 二ケーションと 1 二ケーションス ニ 1 二ケーションス ニ 1 二ケーションス ニ 1 二ケーションス ニ 着力を磨こう	は? は? キル キル	問際社では、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにははははは、第二年のにはははははははははははははははははははははははははははははははははははは	でもらおう!』 「必要なコミュニク」でもらおう!』 してもられるというというというでは、 しようというというというでは、 になっためには / 信頼 しよう!』 になためには / 信頼 にいるためには できるためににいる。 できるためには できるために できるために できるために できるために できるために できるために できるでも できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	はす   聞き上手に  関係を築く	なるためには	
	3 4 5 6 7 8 9	コココのコのコの対対対対対対対対対対地	1 ニケーションと 1 ニケーションと 1 ニケーションス ニ コニケーションス ニ コニケーションス 計 二ケーションス 計 力を磨こう 計 力を磨こう	は? は? キル キル	問際社では、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のには、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにはは、第二年のにははははは、第二年のにはははははははははははははははははははははははははははははははははははは	でもらおう!』 でもらおう!』 でも考えを引き出 しる、う!』 しくするためには/ ししよめには/信頼 はるためには/信頼 を選ぶためには ・ションスキル ・ションスキル	はす   聞き上手に  関係を築く	なるためには	
	3 4 5 6 7 8 9 10	コココのコのコの対対対対対対対対対対対	1 ニケーションと 1 ニケーションと 1 ニケーションス ニニケーションス ニニケーションス ゴニケーションス ゴニケーションス ゴニケーションス ガカを磨こう ガカを磨こう	は? は? キル キル	問際社では、第一のでは、如のでは、如のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第一のでは、第	でもらおう!』 でもらおう!』 でも考えを引き出 しる、う!』 しくするためには/ ししよめには/信頼 はるためには/信頼 を選ぶためには ・ションスキル ・ションスキル	関き上手に関関係を築く	なるためには ためには	
	3 4 5 6 7 8 9 10 11	ココロのコのコの対対対対対他の対対対対地の対対が対対が対対が対対が対対対対対対対対対対対対対対	1 ニケーションと 1 ニケーションと 1 ニケーションス ニニケーションス ニニケーションス ニカケーションス 計力を磨こう 計力を磨こう 計力を磨こう	は? は? キル キル	問際 社 『 伝 『 第 『 質 『 盛 コ リ プ フ そ コーをとを、を象を手に上る デ ゼ シ 他 チーム リーカー ア の の の の の の の の の の の の の の の の の の	でもらおう!』 「必要なおう!』 でも、まえを引きしまりるよう。 しくするためには / 信頼 しくするがには / 信頼 こるためには / 信頼 こまがいまれい ・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル	聞き上手に   関係を築く   t	なるためには ためには ト	

授業科目	コミュニケーション A〔トレ	担当教員	千保大聖		トレーニング指導者
1又来11口	1)	実務 経験	有:	無:	「レーン)1日存日
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	コミュ:	ミュニケーション B〔トレ			担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・賃	<b>集中</b>		必值	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	J\$2	ニケーシ	ノョンを通じて、	自分自	目身の課題を抽	出し、克服する。			
到達目標	社会でも柔軟に対応できるコミュニケーションスキルの向上及び志向となることを目指す。								
テキスト・ 参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会)								
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・	レポー				<b>-</b> ► 20%				
評価基準	小テス	٢			勿 20% 5 60%(受請	<b>李</b> 数 受講能度等	€30% 担当	(所員 30% )	
	提出物			C 07 II	. 60%(受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%)				
	その他	人。油脂	   	11. <i>t</i> \t	に進めていき	ます。、人との信頼	1問係を筑く	ためのツールと	
履修上の 留意事項	して『:	コミュニ		とても	大切です。社	会人に向けての大			
履修主題・	回		履修主題			履修内	容		
履修内容	1	757	ュニケーションと	は?	『自分を知ってもらおう!』 自己紹介				
	2		ュニケーションと	:は?	『自分を知ってもらおう!』 問答ゲーム"				
		コミュニケーションとは?							
	3	コミュ		:は?	『自分を知っ 社会人として	ってもらおう!』 「必要なコミュニク	ーションと	は?	
	3				『自分を知っ 社会人として 『自分を知っ	が要なコミュニケ でもらおう!』		は?	
		] ] ]	1ニケーションと 1ニケーションと 1ニケーションス	:は?	『自分を知っ 社会人として 『自分を知っ 伝える、褒め 『会話を上道	<u>が要なコミュニケ</u> でもらおう!』 ○る、考えを引き出 ■しよう!』	はす		
	4	コミュ	1二ケーションと 1二ケーションと 1二ケーションス 5 1二ケーションス	:は?	『自分を知って 社会人分をといる 『自うる、 「会話を上述 第一のである。 「会話を上述	「必要なコミュニケ 」でもらおう!』 」る、考えを引き出 むよう!』 とくするためには / 証しよう!』	ぱす 聞き上手に	なるためには	
	4 5	コミュ の向上 コミュ の向上	1 二ケーションと 1 二ケーションと 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ	は? キル キル	『社会日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	「必要なコミュニク かてもらおう!』 かる、考えを引き出 をしよう!』 をくするためには / をしよう!』 なるためには / 信頼	当す 聞き上手に 1関係を築く	なるためには	
	4 5 6	コミュの向上コミュの向上	1 二ケーションと 1 二ケーションと 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ	は? キル キル	『社のでは、日本のでは、	び要なコミュニケ かてもらおう!』 かる、考えを引き出 しよう!』 なくするためには / をしよう!』 なるためには / 信頼 でしよう!』	当す 聞き上手に 1関係を築く	なるためには	
	4 5 6 7	コミュ の向上 コの向上 の向上 対他者	1 二ケーションと 1 二ケーションと 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ ニケーションス	は? キル キル	『社のでは、日本のでは、	が要なコミュニケ かてもらおう!。 かる、考えを引き出 しよう!。 とくするためには/ しよう!。 にるためには/信頼 しよう!。 にあたら!。 にもよう!。 にもよう!。 にもよう!。 にもよう!。 にもよう!。 にもないには/信頼	当す 聞き上手に 1関係を築く	なるためには	
	4 5 6 7 8	コロのコロのコの対し、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対	1 二ケーションと 1 二ケーションと 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス こ 1 二ケーションス	は? キル キル	『社『伝『第二年 日本	が要なコミュニケ かてもらおう!。 かる、考えを引き出 しよう!。 とくするためには/ しよう!。 にるためには/信頼 しよう!。 にあたら!。 にもよう!。 にもよう!。 にもよう!。 にもよう!。 にもよう!。 にもないには/信頼	当す 聞き上手に 1関係を築く	なるためには	
	4 5 6 7 8 9	ココのコのコの一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の	1 ニケーションと 1 ニケーションと 1 ニケーションス ニ ニケーションス ニ ニケーションス ニ オカを磨こう	は? キル キル	『社『伝 明白 会自え会 日会自え会 日会問会 日会 日 会 日 会 日 会 日 会 日 会 日 会 日 会 日	が要なコミュニケ かてもらおう!。 かる、考えを引き出 しよう!。 とくするためには / 信頼 しよう!。 にるためには / 信頼 にしよう!。 にしよう!。 でもよう!。 でもよう!。 でもないには / 信頼 でもないには / 信頼 でもないには / 信頼 でもないには / 信頼 でもないには / にあいためには できるないという。	当す 聞き上手に 1関係を築く	なるためには	
	4 5 6 7 8 9	コのコのコの対対対他他者対対	1 二ケーションと 1 二ケーションと 1 二ケーションス 1 二ケーションス 1 二ケーションス 1 二ケーションス 5	は? キル キル	『社『伝 明白 会自え会 日会自え会 日会問会 日会 日 会 日 会 日 会 日 会 日 会 日 会 日 会 日	が要なコミュニケットでもいる。 でもらおう!。 しようとは しよするためには / 信報 しためらいでである。 には / 信報 には / 信報 には フェール・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・・ションスキル・・・ションスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	当す 聞き上手に 1関係を築く	なるためには	
	4 5 6 7 8 9 10	ココのコのコの対対性を対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対対	1 ニケーションと 1 ニケーションと 1 ニケーションス ニ ニケーションス ニ ニケーションス ニ カを磨こう 首力を磨こう 首力を磨こう	は? キル キル	『社『伝 『会 自 会 自 会 自 会 自 会 自 会 自 会 自 会 同 会 同 会 同	が要なコミュニケットでもいる。 でもらおう!。 しようとは しよするためには / 信報 しためらいでである。 には / 信報 には / 信報 には フェール・ションスキル・ションスキル・ションスキル・ションスキル・・ションスキル・・・ションスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	間き上手に質関係を築く	なるためには ためには	
	4 5 6 7 8 9 10 11	コのコのコの対対対対対対他自	1 ニケーションと 1 ニケーションと 1 ニケーションス ニ ニケーションス ニ ニケーションス ニ	は? キル キル	『社『伝『第『質『盛コリプフそコ自会自え会一会問会リミーレァの子とを、を象を手をがニュダゼシ他チのようにははまれてはは過ぎます。 ファイン ファイン ファイン リのの グラス・ディー シェー 対 グラス・ディー かっかっしては できます かいしつ ままり かいしつ かいしつ かいしつ かいしつ は できます かいしつ かいしつ かいしつ アート アート かいしつ アート	が要なコミュニケックでも、考えという。 いても、考えという。 しようのには / 信頼 しなからには / 信頼 にはない。 にはない。 にはない。 にはない。 にはない。 にはない。 にはない。 にはない。 にはない。 には、 にはない。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	間き上手に 関関係を築く t	なるためには ためには ト	

授業科目	コミュニケーション B〔トレ	担当 教員	千保大聖		トレーニング指導者
12211	1)	実務 経験	有:	無:	レーン/川寺日
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			

授業科目		ツコンラ Γ1・PH	ディショニング 11]		担当教員	山岸 舞		
対象年次・学期	1年・減	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態					授業回数	30 回	時間数	
授業目的	ための	支援を多	安全かつ効果的に	:行うた	:めの知識、技	成するために現状 能、態度を習得す	·る	
到達目標	ショニ:	ング計画 体力、道	画と実践ができる	:めの=	コンディショニ	について理解し、 ング計画立案と実		
テキスト・ 参考図書等	公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト3 予防とコンディショニング							
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		50					
評価方法・ 評価基準	レポー		0	+쯔 개도 4	·	· <b>小人</b> 的口节压力。		
<b>計順季</b> 年	小テス 提出物	<u> </u>	20	授業思	8度、試験寺を	:総合的に評価する	) <sub>0</sub>	
	その他		10					
履修上の 留意事項	プリン							
履修主題・			履修主題			履修	内容	
履修内容	1	オリコ			授業内容の説	説明、諸注意、その	D他	
	2		ディショニングに <sup>楚</sup> 知識	おけ	パフォーマンス向上のための 3 要素、トレーニングの原理 原則			
	3	コンラ	ディショニングブ		ピーキングのためのアプローチ方法			
	4	トレーリング	-ニング負荷のモ ブ	ニタ	コンディション指標の活用			
	5	ウォ-	-ムアップ		ウォームアップの目的、効果、方法			
	6	ウォ-	-ムアップ		ウォームアップの実践			
	7	リカノ	<b>バリー</b>		リカバリーの目的、効果、方法、実践			
	8	競技特	寺性の分析		競技特性に応じた分析の活用			
	9	トレー	-ニング各論 1		正しい動作の	)評価		
	10	トレー	- ニング各論 2		ストレングストレーニング			
	11	トレ-	- ニング各論 3		ストレングス	ストレーニングの写	<b>尾</b> 践	
	12	トレ-	- ニング各論 4		スプリントト	・レーニング		
	13	トレ-	- ニング各論 5		アジリティト	トレーニング		
	14	前期0	Dまとめ		前期確認用フ	プリントの配布と答	<b>答案</b>	
	15	前期研	<b>催認テスト</b>		前期授業内容	<b>腎の確認テストを</b> 算	<b>尾施</b>	
	16	トレー	-ニング各論 6		エンデュラン	ノストレーニング		
	17	トレー	-ニング各論7		バランストレ	ノーニング		
	18	トレー	- ニング各論 8		ストレッチン	グ		
	19	トレー	-ニング各論 9		バランストレ	ノーニング、ストし	<b>/ッチン</b> グの	実践
	20		- ニング各論 1 0		正しい動作の	)評価、ストレング	ブストレーニ	ング
	21		ディショニングに Dほかの情報	関す	外的環境への	対策、女性アス!	リートの特性	

22	コンディショニングに関す るそのほかの情報	女性アスリートの特性に対する運動指導
23	コンディショニングに関す るそのほかの情報	成長期、高齢者、障がい者の特性
24	コンディショニングに関す るそのほかの情報	成長期の運動指導
25	コンディショニングに関す るそのほかの情報	高齢者への運動指導
26	コンディショニングに関す るそのほかの情報	減量、増量
27	トレーニング各論 1 1	コンディショニングの指導実践
28	トレーニング各論 1 2	コンディショニング指導の実践
29	後期のまとめ	後期確認用プリントの配布と答案
30	後期確認テスト	後期授業内容の確認テストを実施

授業科目	スポーツコンディショニング	担当教員	石川凌		アスレティックトレーナー、
12 * 17 C	(MT1·PH1)	実務 経験	有:	無:	JATI-ATI
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当 教員			
		実務経験			
		小工門大			

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎 〔トレ1〕			<b>ž</b> .	旦当教員	髙田 涼介	髙田 涼介		
対象年次・学期	1年・追	通年		必修	・選択区分	必修	単位数		
授業形態				持	受業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的	な知識	こついて	トレーナー、スポ で理解する。その 5法について習得	ために、	、上肢・体幹	・下肢の主なスポ			
到達目標	各種スプ	ポーツタ	ト傷・障害の概要	、発生 <del>.</del>	要因を理解し	、予防対応策を訂	†画できるよ <sup>.</sup>	うになる。	
テキスト・ 参考図書等	公認 AT Referer 身体運動	nce Boo		管理お	よびスポーツ	外傷・障害の予防	方)		
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準	Ē		
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		0	±₩₽₽	スの仏/巫謙炎	2. 数 亚维能在空	<b>、ため合わに</b>	並(悪 <del>す</del> っ	
可順坐十	サイス 提出物	Γ	60	<b>正</b> 八	ての他(文画学	<b>姿勢、受講態度等</b>	)を総合的に	i#1叫 9 る。	
	その他		40						
履修上の 留意事項	テキストを中心とした授業展開。PPTによる授業形式を基本とし、プリントを利用したり、動画等も随時利用していく。授業の前後に小テストを行い、授業の理解度を確認する。トレーナー、スポーツ指導者を目指すにあたり必要不可欠な科目です。難しい用語・解剖学的用語が多く出てきますが、基礎的なことから学んでいきますので一つずつ確実に理解し、修得して下さい。また、予習・復習する習慣をつけ、積極的に授業に取り組んで欲しいです。この科目を理解する為に、『身体の解剖と機能』についてもしっかり学習しましょう!みなさんの頑張りを期待しております 1人1冊ノートを用意して下さい							トレーナー、 用語が多く出て て下さい。ま 目を理解する為	
	回		履修主題			履修	内容		
履修主題· 履修内容	1	におけ よび2 防の相		理お害予	講義説明 / スポーツ現場における安全・健康管理及びスポーツ外傷・障害予防の意義				
	2	全・優 ツ外傷	- ツ現場における 建康管理およびス 湯・障害予防の概	ポー 念	スポーツ現場 の活用につい	場における安全管理、組織と役割、ICTやIoT いて			
	3	スポ-   (1)	- ツ外傷・障害の <sup>.</sup>	予防	スポーツ外傷	語・障害の考え方			
	4	スポー	- ツ外傷・障害の <sup>.</sup>	予防	スポーツ外傷	・障害の疫学調	査と事例		
	5		- ツ外傷・障害の <sup>.</sup>	予防	スポーツ外傷				
						傷・障害予防プログラム立案と介入			
	6	スポ <b>-</b>   (4)	- ツ外傷・障害の <sup>.</sup>	予防	スポーツ外傷	・障害予防プロー	グラム立案と	介入	
	7	(4)	- ツ外傷・障害の <sup>.</sup> - ツ外傷・障害の <sup>.</sup>			・障害予防プロ・ 持損傷について	グラム立案と	介入	
		(4) スポー (5) スポー (6)	-ツ外傷・障害の	予防予防		持損傷について	グラム立案と	介入	
	7	(4) スポー (5) スポー (6)	-ツ外傷・障害の	予防予防	膝前十字靭帯	持傷について	グラム立案と	介入	
	7 8	(4) スポー (5) スポー (6) スポー (7) スポー (8)	- ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の	予防 予防 予防 予防	膝前十字靭帯 足関節捻挫に	持傷について こついて いて	グラム立案と	介入	
	7 8 9	(4) スポー (5) スポー (6) スポー (7) スポー (8)	- ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の	予防 予防 予防 予防	膝前十字靭帯 足関節捻挫に 肉離れについ 投球障害につ	持傷について こついて いて			
	7 8 9 10	(4) スポー (5) スポー (3ポー (7ポー スポー (3ポー (9) スポー	- ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の	予防 予防 予防 予防 予防	膝前十字靭帯 足関節捻挫に 肉離れについ 投球障害につ スポーツ外傷	計損傷について こついて いて 記・障害に対する 記・障害に対する	予防的手段(	装具、防具 )	
	7 8 9 10 11	(4) スポー (5) ス(6) ス(7) ス(8) ス(9) ス(10) ス(11)	- ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の - ツ外傷・障害の	予防	膝前十字靭帯 足関節捻挫に 肉離れについ 投球障害につ スポーツ外傷 スポーツ外傷 グ、テーピン	計損傷について こついて いて 記・障害に対する 記・障害に対する	予防的手段(	装具、防具 ) ストレッチン	

15	確認テスト	前期全範囲試験
	安全・健康管理およびスポ	13370 T +0 Ed KN-9V
16	ーツ外傷・障害へ影響を及 ぼしうる各種要因への対応 (1)	性別(女性・男性特有の問題)
17	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(2)	年齢・特性
18	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(3)	感染症
19	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(4)	環境(暑熱、寒冷、高地、落雷)
20	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(5)	環境(特殊環境、大気汚染、時差、移動、海外遠征時の諸 問題)
21	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(6)	用具、防具、設備
22	確認テスト	後期前半のまとめ
23	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(7)	競技・種目特性
24	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(8)	走動作
25	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(9)	跳動作、方向転換動作
26	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(10)	投球動作、打擊動作
27	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(11)	泳動作、あたり動作
28	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(12)	滑走動作
29	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害へ影響を及ぼしうる各種要因への対応(13)	1年のまとめ/試験対策、練習問題配布
30	確認テスト	1 年のまとめテスト

授業科目	スポーツ外傷・障害の基礎 〔トレ1〕	担当教家	
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	
授業形態		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務経験	
		担当 教員	
		実務経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	

授業科目		ングテク ・PH1〕	フニック J		担当教員	石川 凌		
 対象年次・学期				必何			単位数	
							 時間数	
授業目的	解剖学	および楠	幾能解剖学、スホ			まえたテーピング		解する。
到達目標	足関節:	足関節捻挫、膝関節外傷(ACL、MCL損傷)に対する適切なテーピングが実施出来る。						
テキスト・ 参考図書等								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準		
	評価内!							
評価方法・	評価内!			<b>—</b> 11.	-15A & /-1-	I 다 쇼 ၂ - 아드 VV AV 그		
評価基準	評価割		60%	実技詞	試験の結果、出	席および授業態度	を総合的に	評価する。
	評価割	Ħ	40%					
履修上の 留意事項								
履修主題・	0		履修主題			履修1	9容	
履修内容	1	オリコ	エンテーション		授業内容の説明、諸注意など / アンダーラップの巻き方練   習			
	2	テーと	ピングの基礎理論	ì	テーピングの役割、目的、効果、留意点など / アンダーラップの巻き方練習			
	3	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	4	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	5	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	6	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	7	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	8	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	9	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に対するテーピング			
	10	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング	Ť	
	11	足関領	節のテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング	î	
	12	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング	Î	
	13	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング	Î	
	14	足関領	うのテーピング		足関節捻挫に	対するテーピング	ř	
	15	実技語	式験					
	16	膝関領	うのテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対	するテーピング
	17	膝関領	うのテーピング		膝関節前十字	字靭帯・内側側副鞘	帯損傷に対	するテーピング
	18	膝関領	うのテーピング		膝関節前十字	▽靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対	するテーピング
	19	膝関領	節のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対	するテーピング
	20	膝関領	節のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対	するテーピング
	21	膝関領	節のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対	するテーピング
	22	膝関領	節のテーピング		膝関節前十字	型靭帯・内側側副鞘	別帯損傷に対	するテーピング

23	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
24	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
25	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
26	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
27	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
28	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
29	膝関節のテーピング	膝関節前十字靭帯・内側側副靭帯損傷に対するテーピング
30	実技試験	

	テーピングテクニック	担当教員	石川凌		
IXXIII	(MT1·PH1)	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期		担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	トレーナ	一の役	と割〔トレ1〕	3	担当教員	土岐 政義		
対象年次・学期	1年・前期	期		必修	と 選択区分	必修	単位数	
授業形態				1	授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的			と割・業務と専門 とめの知識・態度			となる多様な素養	を理解し、『	関係職種との連
到達目標	ついて説 自身の健 科学的根	国内外の関連資格の役割、業務、制度や法的観点から見たトレーナーに求められる倫理と責任に ついて説明ができる 自身の健康管理の重要性を理解し、その予防や対処法について説明できる 科学的根拠に基づいた業務推進のための情報収集と活用方法について説明できる クライアントの特徴を理解し、連携体制の構築に活用できる						
テキスト・ 参考図書等	公認アス	レティ	゚ックトレーナー	専門科	目テキスト	「アスレティック	トレーナーの	の役割」
	評価方法	法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		0					
評価方法・ 評価基準	レポート		0	+日 山 #/		大松合的口部压力	- 7	
и прет	サラスト 提出物		50	灰山初	<b>"、文</b> 碑忠反守	を総合的に評価す	<b>ට</b> ං	
	その他		50					
履修上の 留意事項	プロジェ プリント	対議義 コジェクター映写(パワーポイント、DVD等) リント教材(毎時配布予定) グループワーク イスカッション レポート 発表 レーナーに対する理解を深め、さらには、「人間性」も養いながら、将来的な活動に生かしてく						
					には、「人間性	生」も養いながら、	将来的な活	動に生かしてく
履修主題・	トレーナ ださい。 回	一に対	対する理解を深め  履修主題	、さら	には、「人間性	生」も養いながら、 履修P		動に生かしてく
履修主題・ 履修内容	トレーナ ださい。 回	一に対	対する理解を深め	、さら	トレーナー養	履修成事業について、	内容	の歴史的背景
	トレーナ ださい。 回 1	ーに対 オリエ ーナー	対する理解を深め 履修主題 ニンテーション、	、さら	トレーナー養	履修 <sub>P</sub>	内容	の歴史的背景
	トレーナ ださい。 回 1 2	オリエ ナナー トレー	付する理解を深め 履修主題 ニンテーション、 - とは 1	、さら	トレーナー春 トレーナーの	履修内 を成事業について、 の起源と歴史につい	内容	の歴史的背景
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4	オリエーナートレートレー	付する理解を深め 履修主題 ニンテーション、 - とは 1 - ナーとは 2 - ナーの業務 1 - ナーの業務 2	トレ	トレーナーを トレーナーの ついて トレーナーの	履修内 を成事業について、 の起源と歴史につい	内容	の歴史的背景
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5	オートトトトび	付する理解を深め 履修主題 ニンテーション、 - とは 1 - ナーとは 2 - ナーの業務 1 - ナーの業務 2 - ナーの活動と倫	トレ理及	トレーナーを トレーナーの ついて トレーナーの トレーナーの	履修序 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	内容	の歴史的背景
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5	オートトトレびトびトリナレレーニー	ではいる理解を深めをできませる。 では、1 では、2 では、2 では、2 では、3 では、5 では、5 では、6 では、6 では、6 では、6 では、6 では、6 では、6 では、6	アントリー・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	トレーナーを トレーナーの ついて トレーナーの トレーナーの 指導者として	履修内 を成事業について、 が起源と歴史につい の役割と任務 の具体的業務内容	トレーナー ハて、諸外国	の歴史的背景のトレーナーに
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6	オートトトレびトびトリナレレーニー	対する理解を深め 履修主題 ニンテーション、 - とは1 - ナーとは2 - ナーの業務1 - ナーの活動と倫 ま1 - ナーの活動と倫 ま2 - ナーの活動と倫	アントリー・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	トレーナーを トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指導者として 活動にあたっ 活動にあたっ	履修成事業について、 起源と歴史につい 役割と任務 の具体的業務内容 一求められる倫理 のでのリスクとリス	内容 トレーナー NT、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6 7	オートトトルドびトび トプレ レ レ リナ レ レ レ リ リー リー リー リー リー リー リー リー 単一	対する理解を深め 履修主題 ニンテーション、 - とは1 - ナーとは2 - ナーの業務1 - ナーの活動と倫 ま1 - ナーの活動と倫 ま2 - ナーの活動と倫	アントリー・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アンドル・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	トレーナーを トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指導者として 活動にあたっ 活動にあたっ	履修内 一般の 一般の 一般の 一般の 一般の 一般の 一般の 一般の	内容 トレーナー NT、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 5 6 7 8 5 9 5	オートトトトびトびトび 安安 に リナレレレ レル運ル運ル運 全全	ではする理解を深め 履修主題 シテーション、 - とは 1 - ナーとは 2 - ナーの業務 1 - ナーの活動と倫 1 - ナーの活動と倫 2 - ナーの活動と倫 3 - 健康管理 1 - 健康管理 2	<ul><li>た</li><li>ウ</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li></ul>	トレーナーを トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指導者として 活動にあたっ 活動にあたっ 自己いて	履修成事業について、 起源と歴史につい 役割と任務 の具体的業務内容 一求められる倫理 のでのリスクとリス	内容 トレーナー Nて、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ ストレスへの	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9	オートトトトびトびトび 安安 に リナレレレ レル運ル運ル運 全全	ではまする理解を深めを 履修主題 シティンは 1 ・ナーとは 2 ・ナーの 業務 1 ・ナーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オーの活動と倫 ・オー・オーの・オーク・オーク・オーク・オーク・オーク・オーク・オーク・オーク・オーク・オーク	<ul><li>た</li><li>ウ</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li></ul>	トレーナーを トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指導者として 活動にあたっ 活動にあたっ コーロンスへの ストレスへの	履修序 一般の事業について、 の起源と歴史についる の役割と任務 の具体的業務内容 でのリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクと	内容 トレーナー NT、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ ストレスへの こついて	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	ー オートトトトびトびトび 安安 スとエ1に リナレレレ レ運レ運レ運 全 全ポのビ対 ニューー 一二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	対する理解を深め 履修主題 フテーリン・ナーとは 2 ナーとは 2 ナーの 業務 2 ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・フナーの 活動と倫 ・フェーション・ファール できます。	<ul><li>、 ト 理理理 ッ 運</li><li>ら</li></ul>	トレーナーを トレーナーの トレーナーの トレーナーの 指動にあたっ 語動にあたっ コロントレスへの 各種資格の役	履修序 一般成事業について、 一起源と歴史につい 一般割と任務 一段割と任務 一具体的業務内容 一求められる倫理 一でのリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクと	内容 トレーナー Nて、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ ストレスへの こついて	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2 対処と精神疾患
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	ー オートトトトびトびトび 安安 スとエ1に リナレレレ レ運レ運レ運 全 全ポのビ対 ニューー 一二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	対する理解を深め 履修主題 - ンは1 - ナーとは2 - ナーの業務1 - ナーの活動と倫 (1) - ナーの活動と倫 (2) - ナーの活動と倫 (3) - ナーの活動と倫 (4) - ナーの活動と倫 (5) (2) - ナーの活動と倫 (5) (2) - ナーの活動と倫 (5) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (8) (7) (8) (7) (7) (8) (7) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	<ul><li>、 ト 理理理 ッ 運</li><li>ら</li></ul>	トレーナーを トレーナーの トレコナーの トレーナーの 指動にあたっ 活動にあたっ 高さいレスへの 各種資格の役 アスト	履修内 一般成事業について、 一般な事業についる。 一般を一般を一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、	内容 トレーナー NT、諸外国 スクマネジメ ストレスへの こついて こおける EBF	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2 対処と精神疾患
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	ー オート トトトびトびトび 安 安 スとエ1エ2に リナ レ レ レ運レ運レ運 全 全 ポのビ ビ対 コー ー 一 三 三 三 三 こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	対する理解を深め 履修主題 フテーリン・ナーとは 2 ナーとは 2 ナーの 業務 2 ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・ナーの 活動と倫 ・フナーの 活動と倫 ・フェーション・ファール できます。	ス     上     理     理     理     運     運     運     運     運     運     運     運     運     運     ご<	トレーナー で	履修内 一般成事業について、 一般な事業についる。 一般を一般を一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、一般のは、	内容 トレーナー ハて、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ ストレスへの こついて こおける EBF 意義、具体手	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2 対処と精神疾患
	トレーナ ださい。 回 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	ー オートトトルトびトび 安安 スとエ1エ2 クに リナレレレレ運レ運レ運 全全ポのビ ビーラ エーーーーー 一営一営一営 としと一連テーテーイ	対する理解を深め 履修主題 フテは 2 ナーとは 2 ナーとは 業 3 ナーののの活動を合 1 ナーのの活動を合 1 ナーのの活動を合 1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ス     ト     理理理 ッ運運 1       さ     レ     及及 フ 営営	トレーナー の	履修内 一般の事業について、 一般の表現と歴史についる。 一般を一般の異体的業務内容 一球められる倫理 一でのリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクとリスクと	内容 トレーナー Tて、諸外国 スクマネジメ スクマネジメ ストレスへの こついて こおける EBF 意義、具体手 理解	の歴史的背景 のトレーナーに ント方法 1 ント方法 2 対処と精神疾患 の概念 法と基本的留意

授業科目	トレーナーの役割〔トレ 1〕	担当教員	濱田光・	土岐政義	アスレティックトレーナー
1又来作口	トレーナーの役割(ドレー)	実務 経験	有:	無:	7 2 2 1 3 7 1 2 7 1 2 7 1
対象年次・学期	1年・前期	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目		ックトl ・PH1 )	レーニング I		担当教員	平間 康允				
対象年次・学期	1年・道	 <b>通</b> 年		必何	 多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的						種マシン等の適切 ルを身につける。	  な使用方法、	マシンジムの		
到達目標			D内容を理解し、 が安全に効果的に			うになる。				
テキスト・ 参考図書等	ベーシ	ベーシックトレーニングテキスト								
	評価フ	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		40							
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0	÷÷₽₽	ひと数 小ニュ	、ト、授業態度、意	5公加 次数元	<b>火川水に<del>オ</del> マ</b>		
们随至于	提出物	Γ	30	i认為欠 ∪	リ点数、小ナス	. 广、投耒忠反、总	はは、安勢で	카메 9 8.		
	その他		30							
						・フリーウエイト				
履修上の 留意事項	がけて <sup>*</sup> 姿勢、 <del>*</del>	下さい。 テクニッ	トレーニングは	「基本しょう	x 」が大切です o。トレーナー	共有施設です。広 。この授業を通じ 、インストラクタ が大切です。	て、正しい(	本の動かし方、		
履修主題・	<u> </u>		履修主題			~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	内容			
履修工題。	1	ガイタ	ブンス、自重エク	ササ	授業評価につ	いて/トレーニン	ノグ機器・施	設・安全管理		
	2	マシン	ノトレーニング		iB マシンの値	マシンの使用方法と実践:上肢(小テスト実施)				
	3	マシン	ノトレーニング		iB マシンの仮	マシンの使用方法と実践:下肢(小テスト実施)				
	4	マシン	ノトレーニング		iB マシンの使用方法と実践:カーディオ、上下肢復習 (小テスト実施)					
	5	実技詞	式験		エクササイス	(テクニック実技 (	(上肢・下肢	)		
	6		⊑クササイズ 1、 ゾション・デッド		デッドリフト	たついて				
	7	ーポシ ト	Eクササイズ 1、 ゾション・デッド	リフ	フォーム習得	<b>]</b>				
	8	ーポシ ト	□クササイズ 1、. ゾション・デッド 	リフ	負荷を加えて	このデッドリフト				
	9	ーポシ ト、/	Ľクササイズ 1、 ゾション・デッド <u>「ックスクワット</u>	リフ	デッドリフト ットについて	·(小テスト実施)、 [	パワーポジ:	ション、スクワ		
	10		ニクササイズ 2、. フワット	バッ	バックスクワ	リットについて				
	11	コアコ	<u> </u>	バッ	フォーム習得	<b>₹</b>				
	12	コアコ	こクササイズ 2、. フワット	バッ	負荷を加えて	このバックスクワッ	y F			
	13	コアコ	⊑クササイズ 2、. フワット	バッ	バックスクワ	リット(小テスト実	施)			
	14	前期復	夏習		筆記試験、実	芸技試験に向けた役	·····································			
	15	実技詞	式験		エクササイス	(テクニック実技(	デッドリフト	へ、スクワット)		
	16	コアコ チプレ	□クササイズ 3、	ベン	前期復習、^	ベンチプレスについ	17			

17	コアエクササイズ 3、ベン チプレス	フォーム習得
18	コアエクササイズ 3、ベン チプレス	負荷を加えてのベンチプレス
19	コアエクササイズ 3、ベン チプレス	負荷を加えてのベンチプレス (小テスト実施)
20	実技試験	エクササイズテクニック実技(ベンチプレス)
21	補助エクササイズ 1	背部のエクササイズ(小テスト実施)
22	補助エクササイズ 2	下肢のエクササイズ(小テスト実施)
23	補助エクササイズ3	胸部のエクササイズ(小テスト実施)
24	補助エクササイズ 4	肩のエクササイズ(小テスト実施)
25	補助エクササイズ 5	上肢のエクササイズ(小テスト実施)
26	補助エクササイズ 6	体幹のエクササイズ、自重(小テスト実施)
27	補助エクササイズ 7	全体復習
28	補助エクササイズ8	筆記試験、実技試験に向けた復習
29	実技試験	エクササイズテクニック実技、口答試験
30	実技試験	エクササイズテクニック実技、口答試験

授業科目	ベーシックトレーニング	担当教員	平間康允		
技業行口	(MT1·PH1)	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	運動生3	理学〔卜	-レ1)		担当教員	橋場 晋也		
対象年次・学期	1年・道	通年		必何	冬・選択区分	必修	単位数	
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	身体の	解剖と機	■動がどのように 幾能 を通じて「 うな身体に変化が	人体の	)構造や仕組み			通じて「運動に
到達目標	*日本ス の内容	くホーツで 80%に	¥を把握するため 協会公認アスレラ 以上正解できるよ	ティッ	クトレーナー			
テキスト・ 参考図書等	AT 入f	身体運動の機能解剖 AT 教本テキスト 2:運動器の解剖と機能 入門運動生理学 * プリントを整理できる A4 ファイルを各自用意してください。						
	評価		評価割合(%)			評価基準	<b>集</b>	
	試験		0					
評価方法・ 評価基準	レポー	-	0			は実施しません		B.U.16
計測基準	小テス	٢	70			1る確認テスト( 5)を総合的に評		是出物、その他
	提出物		10	20 (出席率・授業態度)を総合的に評価します。				
履修上の 留意事項	筋肉名		'○				ださい!	
履修主題・	回		履修主題			履修	<b>於内容</b>	
履修内容	1	ガイタ	ブンス		学習達成目標	票、成績評価、諸	注意、その他	1
	2	AT 教:	本 関節の構造と	機能	* 可動 * 可動 * 解 間・胫腓 軟 能 節、恥骨結 関 関 質 質	適合と可動関節 関節(線維性関節 建性関節(縫合: 引・釘植) 骨性関節:軟骨結 計 節の形状によるな	頭蓋間・靭帯 合、線維軟骨	
	3	AT 教:	本 骨格筋の構造			の微細構造 の収縮メカニズ	<b>'</b> \	
	4	AT 教	本 エネルギー供	給系	骨格筋の収縮メカニズム: エネルギー供給機構筋線維組成・筋線維のタイプ分類無酸素性作業閾値(Anaerobic Threshold:AT 値)			
	5	AT 教	本 筋収縮の様式		筋腱複	様式の各エクサー 合体・跳躍動作	ナイズにおける	る特徴の比較
	6	AT 教	本 筋の形状		力ー長 筋の形	様式と筋出力 さ関係、カー速原 状 学的断面積、解語		
	7	AT 教 の関係	本 筋収縮と関節	運動	二関節 テコ	・共同筋・固定原 筋と単関節筋		
	8	AT 教	本 神経支配		感覚の 脊髄の 筋紡錘 伸張反	構造 とゴルジ腱器官 射・相反神経支!		
	9	AT 教	本 神経支配		サイズ	位と神経支配比 の原理 位と種類		
	10	AT 教	本 神経支配		: 全身性	反射		

照意運動	_		•	
11				脳の構造と各部位名称 運動プログラム 錐体路系・錐体外路系
12 神経系まとめ	11		:	筋力トレーニングの適応
13	12			
<ul> <li>・ 肺循環と全身循環</li></ul>	13	運動と呼吸	:	呼吸器の構造 内呼吸と外呼吸 呼吸商 酸素摂取量 AT(anaerobic threshold)値 酸素分圧 酸素解離曲線
□ 15 運動と循環	14	運動と呼吸	:	記述問題・5 択問題
	15	運動と循環	:	心拍数(heart rate:HR)と自律神経 1 回拍出量 心拍出量
運動時の内分泌応答   炭水化物代謝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16	運動と循環	:	記述問題・5 択問題
19 筋疲労	17	内分泌・ホルモン	:	運動時の内分泌応答 炭水化物代謝・脂質代謝・タンパク質代謝 副腎皮質ホルモン
20       姿勢の安定性と重心       : 支持基底面・測定方法 : 立位姿勢の安定性の要因         21       回転運動・慣性モーメント       : 定義 (質性モーメント (回転力(トルク)) モーメントアーム         22       回転運動・慣性モーメント       : 記述問題・5 択問題         23       身体運動の力学的基礎 (フトル量・スカラー量 (運動量 (工事))       : 記述問題・5 択問題         24       身体運動の力学的基礎 (力学的なパワー、力学的工 (ネルギー       : 定義 (仕事・位置エネルギー・運動エネルギー (主記述問題・5 択問題)         25       力学的エネルギー (おかず) (おおいギー)       : おびのパイオメカニクスと特徴 (活力メカニクスと特徴) (活力メカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活力メカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動作とパイオメカニクスと特徴) (活動性とパイオスカニクスと特徴) (活動性とパイオスカニクスと特徴) (活動性とパイオスカニクスと特徴) 	18	内分泌ホルモン	:	記述問題・5 択問題
20	19	筋疲労	:	記述問題・5 択問題
21       回転運動・慣性モーメント       慣性モーメント 回転力(トルク) モーメントアーム         22       回転運動・慣性モーメント       : 記述問題・5 択問題         23       身体運動の力学的基礎       : 記述問題・5 択問題         24       身体運動の力学的基礎       : 記述問題・5 択問題         25       力学的なパワー、力学的工	20	姿勢の安定性と重心	:	立位姿勢の安定性の要因
22   回転運動・慣性モーメント	21	回転運動・慣性モーメント	:	慣性モーメント 回転力 ( トルク )
23   身体運動の力学的基礎   質量・重量	22	回転運動・慣性モーメント	:	
25	23	身体運動の力学的基礎	:	質量・重量 ベクトル量・スカラー量
25       ネルギー       仕事・位置エネルギー・運動エネルギー         26       力学的エネルギー       : 記述問題・5 択問題         27       歩行・走行・跳躍・泳動作・滑動作       : 歩行のバイオメカニクスと特徴	24	身体運動の力学的基礎	:	記述問題・5 択問題
27   歩行・走行・跳躍・泳動	25	ネルギー	:	
27   歩行・走行・跳躍・泳動	26	力学的エネルギー	:	10.21 3.2 - 3.11 3.2
28   歩行・走行・跳躍・泳動	27		:	走行とバイオメカニクスと特徴 跳躍とバイオメカニクスと特徴 泳動作とバイオメカニクスと特徴 滑動作とバイオメカニクスと特徴
29   メカニクスまとめ   : 記述問題	28	作・滑動作	:	走行とバイオメカニクスと特徴 跳躍とバイオメカニクスと特徴 泳動作とバイオメカニクスと特徴
30 運動学・運動生理学・バオ : 5 択問題 : 5 択問題	29		:	記述問題
31	30	運動学・運動生理学・バオ	:	5 択問題
	31			

授業科目	運動生理学〔トレ1〕	担当教員	橋場晋也		日本スポーツ協会公認アスレテ
1又未11口	(注到工程子(1 レー)	実務 経験	有:	無:	ィックトレーナー、鍼灸師
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当			
		実務 経験			

授業科目	救急処間 1・健康		川講習〔トレ		担当教員	小笠原 鷹介				
 対象年次・学期	1年・賃	<b>集中</b>		必側	 多・選択区分	トレー・健康	単位数			
						I / 必修 15 回	時間数	30 時間		
授業目的	救急処証	置につい	いて学び、現場に	て実践	<b>まできる。</b>					
到達目標	救急処罰	救急処置法検定試験合格を目標とする。								
テキスト・ 参考図書等	救急処証	置法養原	<b></b> 붗講習テキスト							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	-	0	= 5 = 4	/=					
評価基準	小テス	<u> </u>	0	試験、	その他(受講姿勢、受講態度)を総合的に評価する。					
	提出物		100							
履修上の 留意事項	特にな	L.	200							
履修主題・			履修主題			履修P	内容			
履修内容	1	オリコ	ニンテーション		救急処置法について					
	2	心肺薊	集生法①		胸骨圧迫の方法、注意点。					
		心肺蘇生法①				7/4\ /1/8/11/10				
	3	心肺劑	集生法②		人工呼吸の方					
	3	心肺 A E C			心肺蘇生・A	i法、注意点。 EDの使用方法、				
	-	AEC			心肺蘇生・A 心肺蘇生・A	i法、注意点。 E D の使用方法、 E D の使用方法・		去・注意点。		
	4	A E C	)	)	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:f	i法、注意点。 E D の使用方法、 E D の使用方法・	気道異物除			
	4 5	AEC AEC 救急班	)の使用		心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:1 胸骨圧迫、人 救急現場に進	i法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木)	気道異物除	て。		
	4 5 6	AEC AEC 救急班	) )の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習②		心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:1 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。	ī法、注意点。 ▲ E Dの使用方法、 ▲ E Dの使用方法・ を々木) 、工呼吸の連続した	気道異物除 ・動きについ ・の引継ぎま	での流れについ		
	4 5 6 7	AEC AEC 救急理 救急理	) )の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習②		心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員:1 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。	「法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 選遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 ・動きについ ・の引継ぎま	での流れについ		
	4 5 6 7 8	AEC 教急野 救急野 止血污	) )の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習②	)	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急現場に進 て。 直接圧迫法、 止血法の実践	「法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 選遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについいの引継ぎま	での流れについ		
	4 5 6 7 8 9	AEC AEC 救急野 救急野 止血活 止血活	) )の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習② 法 と と と と は の 演習	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	での流れについ		
	4 5 6 7 8 9	A E C 救急野 救急野 止血	)の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習② は は は は で は で は で は で は で は で は で は で	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急現場に遭 て。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	での流れについ		
	4 5 6 7 8 9 10	A E C	)の使用 見場の総合実習① 見場の総合実習② 法 法の演習 口を使用した固定 口を使用した固定	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 教急現場に遭 て。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して 三角巾を使用	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	て。		
	4 5 6 7 8 9 10 11	AEC AEC 救急野 止血角質 一三演習記	) の使用 見場の総合実習② 見場の総合実習② した はの演習 のを使用した固定 のを使用した固定 は験① は験① は験②	法	心肺蘇生・A 心肺蘇生・A (担当教員: f 胸骨圧迫、人 救急。 直接圧迫法、 止血法の実践 外傷に対して 三角巾を使用 試験実施	7法、注意点。 E Dの使用方法、 E Dの使用方法・ 左々木) 、工呼吸の連続した 遭遇から医療機関へ 関節圧迫法の方法	気道異物除 動きについ の引継ぎまと注意点に	て。		

授業科目	救急処置法特別講習〔トレ1・	担当教員	遠藤	貢			
汉杰行口	健康 1〕	実務 経験	有:■		無:□		
対象年次・学期	1年・集中	担当教員	佐藤	隆			
授業形態		実務 経験	有:■		無:□		
		担当教員	秋葉	哲夫	=		
		実務 経験	有:■		無:□		
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務経験					
		担当教員					
		実務経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					
		担当教員					
		実務 経験					

授業科目	見学実	習〔共〕	通1]		担当教員	今井 由美子				
 対象年次・学期	1年・1	 集中		必何	 俢・選択区分	必修	 単位数			
						15 回	 時間数	30 時間		
授業目的	プロのヨ	プロの現場を見学し、今後のトレーナー実習に活かす。								
到達目標	プロのヨ	プロの現場を見学し、今後の目指すべき方向性を説明できる。								
テキスト・参考図書等	なし	なし								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー	٢	0							
評価基準	小テス	١	0	受講姿勢、出席状況を評価基準とする。 						
	提出物		0							
 履修上の	その他		100							
留意事項	特にな	U <sub>0</sub>			1					
履修主題・	回		履修主題			履修四	內容			
履修内容	1	プロt	ナッカー見学実習	i	プロの現場、トレーナーの動きについて見学する。					
	2	プロt	ナッカー見学実習	1	プロの現場、	景、トレーナーの動きについて見学する。				
	3	プロt	ナッカー見学実習	1	プロの現場、	口の現場、トレーナーの動きについて見学する。				
	4	プロ里	<b>孙</b> 球見学実習		プロの現場、	場、トレーナーの動きについて見学する。				
	5	プロ墅	<sup>乃球見学実習</sup>		プロの現場、	現場、トレーナーの動きについて見学する。				
	6	プロ墅	<sup>乃球見学実習</sup>		プロの現場、	コの現場、トレーナーの動きについて見学する。				
	7	プロノ	(スケ見学実習		プロの現場、	見場、トレーナーの動きについて見学する。				
	8	プロノ	(スケ見学実習		プロの現場、	トレーナーの動き	たついて見	学する。		
	9	プロノ	「スケ見学実習		プロの現場、	トレーナーの動き	について見	学する。		
	10	プロス	フットサル見学実	[캡	プロの現場、	トレーナーの動き	について見	学する。		
	11	プロフ	フットサル見学実	[習	プロの現場、	トレーナーの動き	たついて見	学する。		
	12	プロフ	フットサル見学実	[習	プロの現場、	トレーナーの動き	たついて見	学する。		
	13	プロバレーボール見学実			プロの現場、	)現場、トレーナーの動きについて見学する。				
	14	プロノ	(レーボール見学	実習	プロの現場、	トレーナーの動きについて見学する。				
	15	プロノ	<b>ドレーボール見</b> 学	実習	プロの現場、	トレーナーの動き	たついて見	学する。		

授業科目	見学実習〔共通 1〕	担当教員	土岐政義		アスレティックトレーナー
1支未行日	兄子笑自〔共旭〕〕	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	身体の解剖と機能 〔トレ 1〕				担当教員	橋場 晋也			
対象年次・学期	全1年	・通年		必值	冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的	身体の	解剖と		人体σ	構造や仕組み	」を、そして、追 象と仕組みを、学		通じて「運動に	
到達目標	*日本ス の内容	、ホーツ で 80%	協会公認アスレー 以上正解できるよ	ティッ	クトレーナー専	題」にて確認テス 専門科目検定試験			
テキスト・ 参考図書等	AT 入f	教本テ 門運動生	機能解剖 キスト2: 運動器 E理学 &理できる A4 フ			てください。			
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		0			は実施しません。		3 J. 14 m	
<b>計順季</b> 年	小テス   提出物	<u> </u>	70			。る確認テスト( <u>/</u> ○ を総合的に評価		是出物、その他	
	その他		10						
履修上の 留意事項			└────────────────────────────────────			覚えます。 うに工夫してくた	ごさい!		
	回		履修主題			履修	内容		
履修主題・ 履修内容	1	ガイタ	ダンス		学生自 姿勢評( 脊柱の 教科書(	価 幾能評価 の準備			
	2	解剖き覚える	学的用語・専門用 る	語を	分・四肢の区を評価を対して、	構成する骨名と生 動 勢 基本面 どの名称 称 別肢・胸郭・胸骨 ぶ、手の骨	理的弯曲、侧		
	3	関節名	ろと関節の動き		PC 単語登録  : 確認テスト (身体の区分・骨名など) 関節の基本構造 各関節の名称 関節の動きの名称と関節可動域 *上肢の関節 :肩関節、肘関節、前腕部の関節、手関節、手指の関節 *下肢の関節 : 股関節、膝関節、足関節、足部の関節 *体幹部の関節 : 胸郭、骨盤、脊柱の関節 関節の分類と形状による分類 PC 単語登録				
	4	筋肉名	呂を覚える		: 関節名の復習問題 全身の体表の筋肉名を覚える PC 単語登録				
	5	上肢の	D筋肉名を覚える	1		スト (関節名、 の各部名称	全身の筋肉や	<b>当)</b>	

		ローテーターカフ
		上肢・前腕の筋肉
		PC 単語登録
		: 肩甲骨周辺の骨部位・筋肉名復習(記述問題)
6	肩甲骨周囲筋・骨盤周囲筋	骨盤の各部名称 下肢の筋肉名を覚える
		PC 単語登録
		: 確認テスト (肩甲骨周辺記述問題)
_		確認テスト (上肢・前腕の筋肉)
7	上肢の筋肉まとめ	下肢の筋肉名(続き)
		PC 単語登録
8	   下肢の筋肉まとめ	: 下肢の筋肉まとめ
	1 112 0 1131 301 2 0	PC 単語登録
	│ │ 腕神経叢の神経・筋肉名を	: 確認テスト (下肢の筋肉) 腕神経叢の神経名
9	開発を表の神経・筋内石を開発する	上肢の筋肉の支配神経   上肢の筋肉の支配神経
	見たる	PC 単語登録
	ᄪᅶᄱᅏᆇᅟᄱᄝᅶᄱᅏᆇᇬᅶ	: 腰神経叢・仙骨神経叢の神経名
10	腰神経叢・仙骨神経叢の神	下肢の筋肉の支配神経
	経・筋肉名を覚える	PC 単語登録
11	上肢・下肢の筋肉神経支配	: 確認テスト (腕神経叢)
ļ	テスト	確認テスト (腰神経叢・仙骨神経叢)
12	骨名・筋肉名のまとめ	: 上肢(記述問題:提出物 )
		頭頚部・下肢(記述問題:提出物 ) : 足関節の構造
		* 足趾・足の変形
13	AT 教本 足関節	* アーチ ( windlass 機構・truss 機構 )
		* 足関節の構造と関節名
		* 足関節の靱帯
		: 足関節の筋肉と神経と血管
		* 起始停止・神経・作用
14	AT 教本 足関節	* 足関節・足趾の動きと参考可動域 * 主要な血管・知覚神経
		在認テスト
		PC 単語登録
		: 膝関節の構造
		* 膝関節の構造と関節名
15	AT 教本 膝関節	* 膝関節の動きと参考可動域
		* 半月板 * 味悶節の知業
$\vdash$		* 膝関節の靭帯 : 膝関節の構造
		* 膝関節の靭帯と特徴
		膝関節の筋肉と神経・血管
16	AT 教本 膝関節	* 起始停止・神経・作用
		* 主要な血管
		確認テスト
-		PC 単語登録 ・ 股関節の基準と機能
	** . *	: 股関節の構造と機能   *骨盤部の各部名称(復習)
17	AT 教本 股関節	* 静的アライメント
		* 股関節疾患
		: 股関節の構造と機能
	** . *	* 股関節周囲筋の起始停止・作用・神経支配
18	AT 教本 股関節	* 股関節周囲筋タイトネステスト復習
		確認テスト PC 単語登録
		PC 早間豆琢
	   AT 教本 上肢帯の運動・肩	* 解剖学的関節と機能的関節
19	関節の運動	* 関節ごとの特徴
L		* 肩甲上腕関節の詳細
		: 肩関節の筋肉
		* ローテーターカフ(復習)
20	AT 教本 肩関節	* 筋肉の起始停止と作用・神経支配と血管
		* 肩甲骨と上腕骨をつなぐ筋群 * 上腕骨と体幹をつなぐ筋群
		* 肩甲骨と体幹をつなぐ筋群
	I.	ID I D CITTI C > O \ NUIT

		* 四辺形間隙
		確認テスト
		: 肘関節の構造
		* 骨の各部名称と関節の構造
21	AT 教本 肘関節	* 静的アライメント(carrying angle)
		* 肘関節の靭帯
		: 肘関節の筋肉と神経
		* 上腕・前腕筋群の起始停止・神経・作用
00		* 血管神経の走行
22	AT 教本 肘関節	* 肘部管・フローセの腱弓
		確認テスト
		PC 単語登録
		: 手関節の構造
		* 骨名・関節名の復習
		* 関節の動きの名称と可動域の復習
23	AT 教本 手関節	* 焼骨手根関節・手根中央関節の構造と特徴
		手関節・手指の関節の構造と特徴
		* 三角線維軟骨複合体 * 母指の運動の名称と関節の特徴
		* 手指の関節の動きと靭帯
		: 手関節・手の筋肉
		* 前腕筋群(外在筋)と手の筋(内在筋)
		* 起始停止・作用・支配神経
		* 母指の運動
0.4	A工物士 工即签	手関節・手の筋の血管と神経
24	AT 教本 手関節	* 手根管・Guyon 管・橈骨動脈拍動部位
		神経麻痺
		手の良肢位
		確認テスト
		PC 単語登録
		: 脊柱の構造と機能
25	AT 数末 炎けの運動	脊柱の弯曲、仙骨傾斜角   側弯症
25	AT 教本 脊柱の運動	<sup>関号症</sup>   各椎間の可動域(上位・中位・下位頚椎、胸椎、腰
		一日性間の可動域(工位・中位・下位現性、胸性、液   椎)
		1世
26	AT 教本 頚椎の運動	頚椎の領色(胃の白砂白物、関節)   3種の筋肉
	10-1- 20 IE 20 VEED	頚椎の血管と神経(動脈・静脈、腕神経叢)
		: 胸椎の構造(骨の各部名称、関節、胸郭の構成、肋
27	   AT 教士 物性し吻部のできた。	骨)
27	AT 教本 胸椎と胸郭の運動	胸郭部の筋肉
		胸郭部の血管と神経
		: 腰椎・骨盤の構造(骨の各部名称、関節、靱帯、椎
		間板)
28	AT 教本 腰椎・骨盤の運動	腰椎・骨盤の運動(各動きの担当する割合)
		腰椎・骨盤の筋肉(主動作筋)
	# F 1 4 7 1 1 1	腰椎・骨盤の血管と神経
29	筋骨格系まとめ	: 記述問題
30	筋骨格系まとめ	: 5 択問題
31		

授業科目	身体の解剖と機能 〔ト	担当 教員 ·レ1〕	橋場晋也		日本スポーツ協会公認アスレテ
1X*11 LI		実務経験	有:	無:	ィックトレーナー、鍼灸師
対象年次・学期	全 1 年・通年	担当教員			
授業形態		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	特別研	研修〔共通1〕			担当教員	当教員 山岸 舞			
対象年次・学期	1年・賃	集中		必作	冬・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間	
授業目的	学校生活			. ⊐3	ミュニケーショ	ンスキル向上を目	指す。スポ-	- ツ指導者につ	
到達目標	社会人			ョンを	を取ることが出	来る。スポーツ指	導者とはどの	のような職業か	
テキスト・ 参考図書等									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		0	₩"	2. 数性化点		- <del></del>		
可调坐十	サラス 提出物		0	<b>文</b> 語第	<b>分對、</b>	等を総合的に評価	19 වං		
	その他		100						
履修上の 留意事項	特にな	υ <b>.</b>							
履修主題・	回		履修主題			履修内	容		
履修内容	1	オリコ	ロンテーション		特別研修の目	目的、内容について	説明		
	2	挨拶約	東習		気を付け・礼の仕方、発声練習				
	3		な記入方法につい		記入方法(5W1H、語尾の統一、構成、見栄え)				
	4	スポ- あた!	-ツ指導者を目指 )1	すに	社会人として必要な能力について(コミュニケーション)				
	5	スポー あた!	- ツ指導者を目指 ) 2	すに	スポーツ指導者に必要な能力(解剖・生理学、コンディショニング、測定・評価、リハビリテーション、救急処置)				
	6		- ツ指導者を目指	すに	業界にはどのような人材が必要とされているか。				
	7	上講座			コミュニケーションの手法				
	8	上講座			コミュニケーションの実践 (少数に対するもの)				
	9	上講座			コミュニケーションの実践 (多数に対するもの)				
	10	いて			トレーニング	が方法(下半身)	主働筋の暗詞	3	
	11	トレ <b>-</b> いて	−ニング・主働筋 2	につ	トレーニング	ず方法(上半身)	主働筋の暗詞	3	
	12	全体的	を流会 1		トレーニング	がの実践			
	13	全体的	∑流会 2		トレーニング	がの実践			
	14	まとめ	<b>b</b>			13 のまとめ			
	15	感想文	文記入		履修主題 4~ 施)	13 の感想文の記力	\(記入方法 —————	の再確認も実	

授業科目	       特別研修〔共通 1〕	担当 教員	山岸	舞		アスレティックトレーナー、鍼灸
1文未行口	行的机能 (天地一)	実務 経験	有:		無:	師
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				
		担当教員				
		実務 経験				

授業科目	一年次福	研究課題	夏 〔トレ1〕		担当教員	今北 雄太				
対象年次・学期	1年・第	<b>集中</b>		必何	多・選択区分	選択	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	60 時間		
授業目的	与えられ	れた課題	<b>夏</b> や問題を学問的	加に深く	、考え、調べ、	明らかにする。				
到達目標	調べ、日	明らかに	こした内容をレオ	学 イープ	うとしてまとめ	あげる。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する									
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・ 評価基準	レポー		60	<u>مب</u> ا	_ ᆫᄊᆌᆸᄱᄦᅈ	の仕口を炒合めに	- 諫/ <del>声 オ</del> ァ			
山岡松宇	小テスト     0       提出物     20			レホ-	- トで促出物寺	の状況を総合的に	-計11119 句。			
	その他		20							
履修上の 留意事項										
履修主題・	回		履修主題		履修内容					
履修内容	1	基礎相	既論		アスリハの根	張要・考え方・用語	吾説明・機能	解剖		
	2	基礎相	既論		アスリハの根	腰・考え方・用詞	吾説明・機能	解剖		
	3	基礎相			リスク管理に	こついて				
	4	運動物	療法の基礎知識と	:用語	筋力エクサヤ	ナイズについて				
	5	運動療	意法の基礎知識と	用語	筋力エクサヤ	ナイズについて				
	6	運動物	療法の基礎知識と	用語	可動域訓練に	こついて				
	7	運動療	意法の基礎知識と	用語	神経一筋協調性エクササイズ					
	8	運動療	療法の基礎知識と	:用語	全身持久力とアスリハ					
	9	運動療	療法の基礎知識と	:用語	身体組成とアスリハ					
	10	再発	方止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	ミとダイナミックフ	 アライメント			
	11	再発防	方止と外傷予防の	動作	スポーツ動作	<b>■とダイナミック</b> フ	アライメント			
	12	再発展	方止と外傷予防σ	動作	受傷機転とダ	<sup>ず</sup> イナミックアライ	イメント			
	13	再発展	方止と外傷予防 <i>σ</i>	動作	動作・姿勢の	)観察と評価				
	14	物理療	療法と装具・イン	/ソー	物理療法					
	15	物理療	<b>奈法と装具・イン</b>	/ソー	リハビリテー	-ションに用いる∛	長具、歩行と	足底挿板		
	16	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	アスリハ				
	17	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	アスリハ				
	18	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とアスリハ					
	19	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とア	<b>7</b> スリハ				
	20	再発際	方止と外傷予防σ	動作	スポーツ動作	<b>ミとダイナミック</b> フ	フライメント			

21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
27	物理療法と装具・インソール	物理療法
28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	一年次研究課題 〔トレ1〕	担当教員	千保大聖		トレーニング指導者
1又来11口	十八川九郎歴(「レー)	実務 経験	有:	無:	「レーン)1日存日
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	一年次福	研究課是	夏 〔トレ1〕		担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・負	集中		必何	多・選択区分	選択	単位数		
授業形態					授業回数	15 🛽	時間数	60 時間	
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。								
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。								
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準	隼		
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		60	. 48		の出れたかるか	<b>に証/悪士</b> っ		
TIM <del>**</del>	サイス 提出物	<u> </u>	20	レホ-	- トや提出物寺	の状況を総合的	に評価9る。		
	その他		20						
履修上の 留意事項									
履修主題・			履修主題			履修	内容		
履修内容	1	アス!	リートの健康管理	につ	健康管理体制、メディカルチェック				
	2	アス! 対策	リートの内科的障	害と	急性障害の種類とその対策				
	3		リートの内科的障	害と	慢性障害の種類とその対策				
	4		Jートの外傷・障	害と	基礎知識、部位別にみる外傷・障害				
	5	アスし	∨ティックリハヒ ョンとトレーニン		アスリハの概説と留意点				
	6	アスし	∨ティックリハヒ ョンとトレーニン		アスリハの進め方と組み立て				
	7		リートの栄養摂取	<b>又と食</b>	5 大栄養素の	概要			
	8	コンラ	ディショニングの	手法	ストレッチン	/グの種類と方法			
	9		ディショニングの		テーピングの	)目的と効果、注	意事項		
	10	アス! 生活	リートの栄養摂取	マンスと食	栄養障害と対	対処法、サプリメ	ント		
	11	特殊環	環境下での対応		水分補給、暑	<b>書熱、寒冷対策</b>			
	12	特殊環	環境下での対応		高地、時差、	感染症対策			
	13	コンラ	ディショニングの	手法	アイシングの	)効果、アイスパ	ック作り		
	14	コンラ	ディショニングの	)手法	スポーツマッ	リサージの目的と	効果、手技の	種類	
	15	コンラ	ディショニングの	)手法	集中力のトレ	<b>ノーニング</b>			
	16	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	ニアスリハ			
	17	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	ニアスリハ			
	18	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とア	アスリハ			
	19	運動療	療法の基礎知識と	用語	身体組成とア	<b>7</b> スリハ			
	20	再発防	方止と外傷予防σ	動作	スポーツ動作	<b>Eとダイナミック</b>	アライメント		

21	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
27	物理療法と装具・インソール	物理療法
28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
29	物理療法と装具・インソール	歩行と足底挿板
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	一年次研究課題 〔トレ1〕	担当教員	千保大聖		トレーニング指導者
1又来11口	十八川九郎歴(「レー)	実務 経験	有:	無:	「レーン)1日存日
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	一年次福	研究課題	夏 〔トレ1〕		担当教員	今北 雄太			
対象年次・学期	1年・	集中		必但	 多・選択区分	選択	単位数		
授業形態					授業回数	15 回	時間数	60 時間	
授業目的	与えられた課題や問題を学問的に深く考え、調べ、明らかにする。								
到達目標	調べ、明らかにした内容をレポート等としてまとめあげる。								
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料等配布する								
	評価	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー		60	. 48		この 出口 ナ 似 へ ぬ に	- ÷亚/亚- <del></del>		
叮Щ坐十	サラス 提出物		20	レハー	- トや掟山物寺	の状況を総合的に	_評1叫9句。		
	その他		20						
履修上の 留意事項	,								
履修主題・	回		履修主題			履修[	内容		
履修内容	1	基礎:	重心と床反力		バイオメカニ	クスを学ぶ上で娘	な ぶ上で必要な基礎力学について		
	2	基礎:	関節モーメント	-	各種運動時、人体の中でどのようなことが起きているのか				
	3	基礎:	:跳躍動作		跳躍動作に必	が要な力学について	<u> </u>		
	4	基礎:	步行		最も基本と言える動作、歩行について				
	5	基礎:	步行		良い歩行とは何なのか				
	6	応用:	走動作		走る動作について				
	7	応用:	:跳動作		跳ぶ動作について				
	8	下肢( (1)	Dスポーツ外傷・	障害	大腿ハムストリングス肉ばなれ / HQ 比				
	9		Dスポーツ外傷・	障害	大腿部打撲/骨化性筋炎/股関節脱臼(脱臼骨折)				
	10		Dスポーツ外傷・	障害	膝 PCL 損傷				
	11		Dスポーツ外傷・	障害	膝 MCL 損傷	;			
	12		Dスポーツ外傷・	障害	膝半月板損傷	<u>=</u>			
	13	(1)	Dスポーツ外傷・		肩関節前方服 鼻)	臼、コンタクトで	での外傷・障	害(顔面・目・	
	14	上肢( (2)	つスポーツ外傷・	障害		日、肘 MCL 損傷、			
	15	体幹0	つスポーツ外傷・	障害	腰椎椎間板へ ディカルチェ	、ルニア、整形外和 : ックの概要	斗的メディカ	ルチェック / メ	
	16	運動療	療法の基礎知識と	用語	全身持久力と	ニアスリハ			
	17	運動療	§法の基礎知識と	用語	全身持久力と	ニアスリハ			
	18	運動療	景法の基礎知識と	用語	身体組成とア	7スリハ			
	19	運動療	景法の基礎知識と	用語	身体組成とア	7スリハ			
	20	再発防	方止と外傷予防σ	動作	スポーツ動作	<b>Fとダイナミック</b> フ	アライメント		
	21	再発防	方止と外傷予防σ	動作	スポーツ動作	<b>Fとダイナミック</b> フ	アライメント		

22	再発防止と外傷予防の動作	スポーツ動作とダイナミックアライメント
23	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
24	再発防止と外傷予防の動作	受傷機転とダイナミックアライメント
25	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
26	再発防止と外傷予防の動作	動作・姿勢の観察と評価
27	物理療法と装具・インソー ル	物理療法
28	物理療法と装具・インソール	リハビリテーションに用いる装具
29	物理療法と装具・インソー ル	歩行と足底挿板
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	一年次研究課題 〔トレ1〕	担当教員	千保大聖		トレーニング指導者
1又来11口	十八川九郎歴(「レー)	実務 経験	有:	無:	「レーン)1日存日
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

	1				T		
授業科目	リコンラ レ1〕	ディショニング 〔ト		担当教員	小林 大介		
対象年次・学期	1年・通	鱼年	必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態				授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	スポーツの現場におけるアスレティックトレーナーには多くの業務があり 種々の原因により低下した身体機能や体力・体調を望ましい状態に戻すこ 身体レベルの低下に繋がる諸要因や、その防止策、そして身体レベルを望 必要な基礎知識を身につける。					すことは重要	要な業務です。
到達目標	アスレティックトレーナーとしてのリコンディショニングの重要性を捉え、理想的な競技復帰に ついて述べることができる。						りな競技復帰に
テキスト・ 参考図書等	公認 AT	テキスト (リコンディ	ィショニ	ニング)			
	評価方	方法 評価割合(%)			評価基準		
	試験	60					
評価方法・	レポート	- 10	期末記	式験結果 60% 8	として、受講姿勢、	出席率、理	!解度の応じて不
評価基準	小テスト		定期にる。	に実施する小テ	・スト、レポートな	ども踏まえ	総合的に評価す
	提出物	10	ď				
	その他 基本はこ	<u> </u> 10 プリントベースで板書。	理解度	まに応じて小テ	ストやレポートか	どの実施もる	
履修上の 留意事項	ーの基礎 いますか	<sup>楚基</sup> 盤の科目です。最初 が、わからない点は何か	理解度に応じて小テストやレポートなどの実施も行う。トレー: 刃は、初めて聞く言葉や用語、難しい表現と感じることも多いと! かしらの方法で質問してもらえると嬉しいです。大切なところは、 ますので、少しずつ理解していきましょう。				ことも多いと思
履修主題・		履修主題			履修四	内容	
履修内容	1	ガイダンス・リコンテ ョニング総論	ディシ	講義内容・A	T・リコンディシ:	ョニングにつ	いて
	2	代表的手法		エクササイス	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	′ンソール、	ブレース
	3	代表的手法		物理療法の定	€義と意義、アプロ	]ーチ方法	
	4	代表的手法		徒手的アプロ ラクティック	]ーチ(マッサージ。 フ等)	<b>筋膜リリ-</b>	-ス、カイロプ
	5	評価とプログラミング	Ť	評価の観点と	•		
	6	評価とプログラミング	Ť	プログラミン	/グの実際		
	7	評価とプログラミング	Ť	プログラミン	/グの実際		
	8	組織修復と治癒過程の	知識	骨、靭帯、筋	· 防、半月板、神経		
	9	機能・身体的問題へのと対応	評価	筋力について	-		
	10	機能・身体的問題へのと対応	評価	関節可動性・	柔軟性について		
	11	機能・身体的問題へのと対応		バランス機能	と しついて		
	12	機能・身体的問題への と対応		全身持久力に	ついて		
	13	機能・身体的問題へのと対応		姿勢やアライ	′メントについて		
	14	機能・身体的問題への と対応	評価	体重管理につ	いて		
	15	まとめ、前期試験につ	いて	前期まとめ・	試験対策		
	16	部位別の状態に応じた ンディショニング		頭頚部			
	17	部位別の状態に応じた ンディショニング	リコ	胸部			
	18	部位別の状態に応じた ンディショニング	ココ	腰部			
	19	部位別の状態に応じた	リコ	肩・肘・前腕	ें ट		

	ンディショニング 	
20	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	手関節・手
21	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	骨盤対・股関節
22	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	大腿部
23	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	膝関節
24	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	下腿部
25	部位別の状態に応じたリコ ンディショニング	足関節・足部
26	パラスポーツのリコンディ ショニング	障がいのあるプレーヤーへの対応
27	総合演習	上肢(グループワーク)
28	総合演習	体幹(グループワーク)
29	総合演習	下肢(グループワーク)
30	まとめ・後期試験について	後期まとめ・試験対策

授業科目	リコンディショニング 〔トレ	担当教員	小林大介		
JANTH	1)	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		#王尚天			

授業科目	スポー <sup>、</sup> 1〕	ツと救急	急対応〔トレ		担当教員	小林 大介			
対象年次・学期	1年・沪	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数		
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間	
授業目的	スポーツ活動現場において安全は最優先事項であるため、救急対応の意義と特性を理解し実 な知識と技術を習得することを目的とする。							を理解し実践的	
到達目標		現場で起こり得る様々な事象に対して、冷静に判断し、最良の救急対応を迅速かつ的確に施せ 基本的な知識と実践能力を身につける。						つ的確に施せる	
テキスト・ 参考図書等	公認 AT	「テキス	、卜 (救急対応)						
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		60						
評価方法・	レポー		10			として、受講姿勢、			
評価基準	小テス	<u> </u>	10	定期にする。		スト、レポートな	ども踏まえ	、総合的に評価	
	提出物		10	, 0,					
履修上の 留意事項	公認 AT 分野は <sup>3</sup>	現場でも	 、ト第 5 巻の内容	    					
履修主題・			履修主題	履修内容					
履修内容	1	オリコ	ニンテーション		授業内容説明 救急対応の第				
	2	救急対	対応とは			気義と目的・考えた	5 等		
	3	救急体	体制の構築		救急体制構築における JSPO-AT の役割、対応計画の作成				
	4	救急問			対応計画の作成と活用、留意点				
	5	外傷・	障害の評価と手	順	初期評価について				
	6	外傷・	障害の評価と手	順	初期評価について 、体位・体温管理				
	7	外傷・	障害の評価と手	順	搬送法				
	8	外傷時	持の救急対応		創傷・出血				
	9	外傷時	持の救急対応		打撲・捻挫・	肉離れ、RICE 処	置		
	10	外傷時	寺の救急対応		骨折・脱臼				
	11	外傷問	寺の救急対応		脳震盪				
	12	外傷問	寺の救急対応		頭部・頚部・	脊椎			
	13	外傷	寺の救急対応		頭部・頚部・	脊椎			
	14	外傷	寺の救急対応		特殊な外傷(ク	筋痙攣、熱傷、日	焼け、凍傷、	眼、歯等)	
	15	内科的	り疾患の救急対応		心停止				
	16	内科的	り疾患の救急対応		熱中症				
	17		り疾患の救急対応		ショック、低	低体温等			
	18	競技別 際	川にみた救急体制	の実	陸上競技				
	19		川にみた救急体制	の実	ラグビー				
	20	競技別際	川にみた救急体制	の実	サッカー				
	21	競技別際	川にみた救急体制	の実	野球				

22	競技別にみた救急体制の実 際	ウエイトトレーニング
23	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
24	まとめ	
25	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
26	まとめ	
27	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
28	まとめ	
29	ケーススタディ	実際のスポーツ環境を想定した対応
30	まとめ	

授業科目 スポ	パーツと救急対応〔トレ1〕	担当 教員	小林大介		
3231114		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期 1年	・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	測定と記	評価〔	-レ1)		担当教員	木田 貴英				
対象年次・学期	AT、M	T、PH1	l 年	必但	多・選択区分		単位数			
授業形態	自己紹定	介、講郭	轰		授業回数	15 回	時間数			
授業目的			村象者の両方の立 る。測定技術及び				る測定と評価の	目的・意義及び		
到達目標	測定と		必要な知識・実技	能力を	€修得し、測定	と評価結果につ	ついて的確な解	釈を論ずること		
テキスト・ 参考図書等	公認	AT 専門	科目テキスト 6(	検査・	測定と評価)					
	評価ス	西方法 評価割合(%)			評価基	準				
	試験		60	60						
評価方法・	レポー		0			出物、その他	( 受講姿勢、受	<b>發講態度等)総合</b>		
評価基準	小テス	<u>۲</u>			平価します。 積極的に発言	した場合は高額	評価を与えます			
	提出物		10	1310(	、積極的に発言した場合は高評価を与えます。					
履修上の 留意事項	講義中	30   30   30   70   70   70   70   70								
			履修主題			履	修内容			
履修主題・ 履修内容	1	ョン	紹介、オリエンテ		自己紹介、オリエンテーション 現場で必要な評価					
	2	形態の	)評価		四肢長、筋委縮の計測の目的、意義、方法、留意点					
	3	姿勢·	アライメント		姿勢の評価基準・指導、スポーツ活動と姿勢					
	4	姿勢·	アライメント		姿勢の評価基準・指導、スポーツ活動と姿勢					
	5	関節可	丁動域テスト		関節可動性テストの目的、意義、方法、留意点					
	6	関節可	丁動域テスト		関節可動性テストの目的、意義、方法、留意点					
	7		イトネステスト・ t・動揺性テスト		筋タイトネス・関節弛緩性・動揺性テストの目的、意義、 方法、留意点					
	8	下肢の (MM	D徒手筋力検査 IT)		MMT の目的、意義、方法、留意点					
	9	下肢の (MM	の徒手筋力検査 MT)		MMTの目的	MT の目的、意義、方法、留意点				
	10		支の徒手筋力検査 MMT)		MMT の目的	MMT の目的、意義、方法、留意点				
	11	筋パワ	J <b>–</b>		筋パワー測定	三の目的、意義.	、方法、留意点	Ā		
	12	敏捷性	ŧ		敏捷性測定 <i>σ</i>	)目的、意義、	方法、留意点			
	13	全身持	 持久力		全身持久力測	定の目的、意	義、方法、留意			
	14	バラン	ノス機能		バランス機能	<b>影定の目的、</b>	意義、方法、貿	留意点		
	15	総復習	7 1		総復習					

授業科目	測定と評価〔トレ1〕	担当教員	木田貴英		
1XXIII	MACCHINA (TVT)	実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	AT、MT、PH1 年	担当教員			
授業形態	自己紹介、講義	実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	スノー7		・スキー実習		担当教員	小笠原 鷹介				
対象年次・学期	1年・第	集中		必何	多・選択区分	選択	単位数			
授業形態					授業回数	15 回	時間数	60 時間		
授業目的					楚技術・知識の習得と向上を目指す。 り、資格取得を目指す。					
到達目標	冬山にる資質を見			・レンテ	デマナー及びリ	スクマネジメント	を理解し、打	指導者としての		
テキスト・ 参考図書等	必要に	応じて資	資料等配布する。							
	評価に	方法	評価割合(%)			評価基準				
	試験		0							
評価方法・	レポー		10	レポ-	- ト・提出物等	の状況を総合的に	評価する			
評価基準	小テス	١	0		νポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する					
	提出物		10 80							
履修上の 留意事項		修という		自己管	<del></del> 管理、時間管理	を徹底して行う事	0			
履修主題・	回		履修主題			履修内	內容			
履修内容	1	事前部	说明会		目的、注意事項伝達					
	2	1日目	午後レッスン開	始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ					
	3	1日目	ミーティング		1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する					
	4	1日目	ナイター練習		1日目に学んだことを復習する。					
	5	2日目	午前レッスン開	始	1日目より難易度の高い事を学ぶ					
	6	2日目	午後レッスン開	始	1日目より難易度の高い事を学ぶ					
	7	2日目	ミーティング		2 日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する					
	8	2日目	日目ナイター練習		2日目に学んだことを復習する。					
	9	3日目	日目午前レッスン開始		2日目より難易度の高い事を学ぶ					
	10	3日目	日目午後レッスン開始		2日目より難易度の高い事を学ぶ					
	11	3日目	日目ミーティング		3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する					
	12	3日目	]目ナイター練習		3日目に学ん	だことを復習する	0			
	13	4日目	午前レッスン開	始	各班に分かれ	、検定へ向けてし	 /ッスンをす	3		
	14	4日目	  検定		今まで学んた	ことを踏まえて検	定に臨む			
	15	4日目	ミーティング		4日目学んだ	ことを各班で話し	合い、日誌	に記入する		

授業科目	スノーボード・スキー実習	担当教員	小笠原鷹介
1文朱1十口	〔共通 1〕	実務 経験	有: 無:
対象年次・学期	1年・集中	担当教員	
授業形態		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	

授業科目	トレー: (MT1	ナー総合 ・PH1			担当教員	菊地 健太				
対象年次・学期	1年・第	€中		必何	多・選択区分	必修	単位数			
授業形態					授業回数	30 回	時間数	60 時間		
授業目的	トレー:	ナー現均	易に帯同し、必要	に応し	で検査・測定	と評価が出来るこ	とを目的と	する。		
到達目標	トレー:	ナー現場	易で検査・測定と	:評価を	宝施し、選手	に説明出来ること	を目標とす	<b>ప</b> .		
テキスト・ 参考図書等	公認 A ·	Tテキス	スト							
		評価方法 評価割合(%)				評価基準				
	試験		0							
評価方法・ 評価基準	レポー		0	١٦٦	ノーナー実習報	告書」の提出をも	って、活動	  状況を確認、評		
	小テス   提出物	<u> </u>	0	価を判	削定する。					
	その他		100							
履修上の 留意事項	特にな	特になし。								
履修主題・	回		履修主題			履修内	內容			
履修内容	1	トレ-	-ナー評価実習	1		ックトレーナーに必 小動作の観察と解析		検査測定の方		
	2	トレ-	-ナー評価実習	2	アスレティッ	ックトレーナーに必要な評価、検査測定の方 ソ動作の観察と解析について。				
	3	トレ-	-ナー評価実習	3	アスレティッ	ックトレーナーに必要な評価、検査測定の方 ツ動作の観察と解析について。				
	4	トレ-	-ナー評価実習	4		- イックトレーナーに必要な評価、検査測定の方 パーツ動作の観察と解析について。				
	5	トレ-	ナー評価実習	5	法、スポーツ	ックトレーナーに必 /動作の観察と解析	fについて。			
	6	トレ-	-ナー評価実習	6	法、スポーツ	ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析	fについて。			
	7	トレ-	-ナー評価実習	7	法、スポーツ	ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析	fについて。			
	8	トレ-	-ナー評価実習	8	法、スポーツ	ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析	fについて。			
	9	9 トレーナー評価実習 9		9	法、スポーツ	ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析	fについて。			
	10	10 トレーナー評価実習 1		10	法、スポーツ	ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析	fについて。			
	11	トレーナー評価実習 1		11	法、スポーツ	ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析	fについて。			
	12	トレー	-ナー評価実習	12	アスレティックトレーナーに必要な評価、検査測定の方法、スポーツ動作の観察と解析について。					
	13	トレー	-ナー評価実習	13	法、スポーツ	クトレーナーに必 /動作の観察と解析	fについて。			
	14	トレー	-ナー評価実習	14	法、スポーツ	クトレーナーに必 /動作の観察と解析	fについて。			
	15	トレー	-ナー評価実習	15		ノクトレーナーに必 ノ動作の観察と解析		検査測定の方		

授業科目	トレーナー総合実習 〔 MT1・	担当教員	若松直斗		アスレティックトレーナー
1又来11口	PH1)	実務 経験	有:	無:	7 7 7 9 7 1 9 7 1
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	トレー:	ナー総合	主選 〔トレ		担当教員	土岐 政義					
対象年次・学期	1年・第	€中		必何	多・選択区分	必修	単位数				
授業形態					授業回数	15 回	時間数	30 時間			
授業目的	トレース			対応、	評価、コンデ	ィショニング、リ	コンディシ:	ョニングが出来			
到達目標			易で救急対応、評 ヒを目標とする。	価、二	コンディショニ	ング、リコンディ	ショニングl	こついて選手に			
テキスト・ 参考図書等	公認 A <sup>-</sup>	Tテキス	スト								
	評価方法 評価割合(%)				評価基準						
	試験		0								
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス		0			告書」の提出をも	って、活動	状況を確認、評			
	提出物	<u>-                                      </u>	0	個を非	判定する。						
	その他		100								
履修上の 留意事項	特になし。										
履修主題・			履修主題			履修 四					
履修内容	1	トレ-	-ナー実習			アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対 応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	2	トレー	-ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対 応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)						
	3	トレ-	- ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)						
	4	トレ-	- ナー実習		アスレティッ	アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	5	トレー	-ナー実習		アスレティッ	·クトレーナーに必  ンディショニンク	が要な能力を	高める(救急対			
	6	トレー	-ナー実習		アスレティッ 応、評価、ニ	アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)					
	7	トレー	-ナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)						
	8	トレ-	ーナー実習		アスレティックトレーナーに必要な能力を高める(救急対応、評価、コンディショニング、リコンディショニング)						
	9	トレ-	- ナー実習		応、評価、=	ックトレーナーに必 1ンディショニンク	<sup>7</sup> 、リコンデ	ィショニング)			
	10	トレー	-ナー実習		応、評価、=	ァクトレーナーに必 1ンディショニンク	<b>゙</b> 、リコンデ	ィショニング)			
	11	トレ-	-ナー実習		応、評価、=	ゥクトレーナーに必 1ンディショニンク	<b>゙</b> 、リコンデ	ィショニング)			
	12	トレ-	-ナー実習		応、評価、=	ックトレーナーに必 1ンディショニンク	<b>゙</b> 、リコンデ	ィショニング)			
	13	トレー	-ナー実習		応、評価、=	ァクトレーナーに必 Iンディショニンク	<sup>7</sup> 、リコンデ	ィショニング)			
	14	トレ-	-ナー実習		プスレティッ 応、評価、コ	ァクトレーナーに必 Iンディショニンク	が要な能力を 「、リコンデ	高める(救急対 ィショニング)			
	15	トレー	-ナー実習			ックトレーナーに必 1ンディショニンク					

授業科目	トレーナー総合実習 〔トレ1〕	担当 教員	山岸	舞		アスレティックトレーナー
1X X 17 L		実務経験	有:		無:	7,707,107
対象年次・学期	1年・集中	担当 教員				
授業形態		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務経験				
		担当 教員				
		実務経験				
		担当 教員				
		実務経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				
		担当 教員				
		実務 経験				

授業科目	ボラン: 1〕	ティア派	舌動 〔共通		担当教員	教員	未定		
対象年次・学期	各学科 年 )・集		₹(3年、2	必何	多・選択区分	選択		単位数	
授業形態					授業回数	15 回		時間数	30 時間
授業目的	ボラン	ティア派	舌動を通じて、直	接的に	二実践力を身に	つける。			
到達目標	ボランラ	ティア派	舌動先における実	務遂行	<sub>丁</sub> を通じてボラ	ンティア	7精神や各	種能力・技術	<b>村力の向上を図</b>
テキスト・ 参考図書等									
	評価フ	方法	評価割合(%)				評価基準		
	試験		0	ボラン	ノテイア活動先	の担当す	当に、実務	遂行状況に	ついて、相対的
評価方法・ 評価基準	レポー 小テス	-	0		新にて評価して ラス担任間にお				の担当者と当
	提出物	<u>'</u>	0	「ボラ					動状況を把握す
	その他		100	る。					
履修上の 留意事項	ル管理が	学外での活動であり、ボランティア ル管理が大変重要となります。活動 っかり取りながら、目標達成を目指		活動其	間が有意義な				
履修主題・			履修主題				履修内	容	
履修内容	1		ノティア活動先に <mark></mark> 多遂行	おけ	ボランティア	'活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	2		ノティア活動先に 务遂行	おけ	ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	3	ボラン る実剤	ノティア活動先に 务遂行		ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	4		ノティア活動先に 务遂行	おけ	ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	5		ノティア活動先に 务遂行	おけ	ボランティア	'活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	6	る実績	ノティア活動先に <u>务遂行</u>		ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	7		ノティア活動先に 务遂行	おけ	ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	8	ボラン る実剤	ノティア活動先に 务遂行		ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	9		ンティア活動先にお 務遂行		ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	10	ボラン	/ /ティア活動先におけ 殊遂行		ボランティア	7活動内容	容について	、実務を通	じて学習する
	11	ボラン る実剤	/ティア活動先におけ		ボランティア	 7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	12	ボラン る実剤	<sup>,</sup> ティア活動先におけ		ボランティア	7活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	13	る実績	ノティア活動先に 8遂行		ボランティア	'活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	14	る実績	ノティア活動先に 8遂行		ボランティア	'活動内	容について	、実務を通	じて学習する
	15		ノティア活動先に 8遂行	おけ	ボランティア	7活動内容	容について	、実務を通	じて学習する

授業科目	ボランティア活動 〔共通 1〕	担当 教員 実務	
対象年次・学期	各学科就職学年(3年、2年)・	経験 担当	
授業形態	集中	教員 実務 経験	
		担当教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験 担当	
		教員実務	
		経験 担当	
		教員 実務	
		経験  担当	
		教員実務	
		経験	

授業科目	検定対策	策 〔F	PH1 )		担当教員	大菅 貴	広		
対象年次・学期	1年・i	通年		必何	冬・選択区分	必修		単位数	
授業形態					授業回数	30 回		時間数	
授業目的	トレーニ	ニング排	<b>省場者として相応</b>	しい知	]識や技術の習	得を目指す	<del>,</del>		
到達目標									
テキスト・ 参考図書等	トレーニ	ニング排	<b>旨導者テキスト理</b>	論編、	実践編				
	評価フ	方法	評価割合(%)			評	平価基準		
	試験		0						
評価方法・ 評価基準	レポー	-	50						
叮Щ坐十	提出物		0						
	その他		50						
履修上の 留意事項									
履修主題・		履修主題					履修内	容	
履修内容	1	1 オリエンテーション							
	2		-ツ業界、トレー <sup>・</sup> こついて	ナー					
	3		-ニング指導者と - レーニング指導 Dいて						
	4	トレ <del>-</del> と業務	- ニング指導者の <sup>:</sup> 8	役割	トレーナー、指導者としての役割を理解する				
	5		<b>スカッション</b>		トレーニング指導者に求められる能力とは				
	6		ーニング指導者が <sub>:</sub> るべき能力	身に	トレーニング指導者に求められる能力を理解する				
	7	トレ <del>-</del> と倫理	−ニング指導者の <sup>:</sup> 里	行動	トレーニング指導者の行動と倫理について理解する				
	8	トレ <b>-</b> デザィ	-ニングのプログ (ン	ラム	トレーニングの効果、トレーニングの原理原則				
	9	デザイ			エクササイズの分類と配列				
	10	デザイ			貝何、凹数、レスト、重、頻度などの設定 				
	11	作成	-ニングのプログ		筋肥大についてのプログラムを作成する				
	12	トレーニングのプログラ 作成		ラム	筋肥大につい	\てのプロ <i>′</i>	グラムを	作成する	
	13	実践・発表							
	14	実践・発表							
	15	実践・発表							
	16	測定と評価			測定と評価の	意義と目的	的、留意	点	
	17	測定と	:評価		測定と評価の	実際			
	18	各種測	川定と評価方法		ジャンプ力、	スプリン	ト、アジ	リティ、柔	軟性などの測定
	19	各種測	川定と評価方法		データの活用	とフィー	ドバック	•	
	20	トレー	-ニングの運営と	情報	トレーニング	が機器・器具	具		

	活用	
21	トレーニングの運営と情報 活用	トレーニング環境
22	トレーニングの運営と情報 活用	トレーニング指導者に必要な情報
23	運動指導のための情報収集 と活用	情報とは
24	柔軟性トレーニング及びウ ォームアップとクールダウ ンの理論とプログラム	柔軟性のトレーニング
25	柔軟性トレーニング及びウ ォームアップとクールダウ ンの理論とプログラム	ストレッチング
26	柔軟性トレーニング及びウ ォームアップとクールダウ ンの理論とプログラム	ウォームアップとクールダウン
27	特別な対象のためのトレー ニングプログラム	メタボリックシンドロームに対するトレーニングプログラ ム
28	特別な対象のためのトレー ニングプログラム	高齢者に対するトレーニングプログラム
29	特別な対象のためのトレー ニングプログラム	妊婦・子供に対するトレーニングプログラム
30	後期復習	

授業科目	検定対策 〔PH1〕	担当教員	大菅貴広		トレーニング指導者
1文朱1十口	1X,CX3,R (1111)	実務 経験	有:	無:	「レーン)出会日
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	スポー、	ツと指導	算者 〔トレ		担当教員	吉田 聡美		
対象年次・学期	1年・ji	通年		必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態	講義及有	びこれま	までの体験の共		授業回数		時間数	
授業目的	スポーツ指導を行う際に必要な事項 の特性を把握し、それに基づいた指 障害、疾病)など、幅広い知識の習			た指導	拿やトレーニン			
到達目標	に付け	指導する立場として、対象者の特性に応じた適切な指導ができるよう基本的な知識や考え方を身に付ける。 指導者として自分自身を成長させるマインドセットを行う。						戦や考え方を身
テキスト・ 参考図書等	Reference Book(公益財団法人日本スポーツ協会) 基礎から学ぶスポーツ心理学 資格に役立つスポーツ心理学ワークブック							
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		80					
評価方法・ 評価基準	レポー	•	0	授業区	りで行うテスト	及び課題等の提出	∃物、その他(	受講姿勢、受講
計逥基华	小テス 提出物	<u> </u>	10		等)を総合的に言			
	その他		10					
履修上の 留意事項	1.講 2.授業 に伴う	誤題や 確かな知	 より行う(パワ テストで理解度(	か確認 ようi	を実施する。 前向きな姿勢を	ト、教科書、ワー あらゆる分野の指 保っていて下さい	尊者となる意	
			履修主題			履修[	 内容	
履修主題・ 履修内容	1	コーチ	チングとは		<ガイダンス> コーチングとコーチを定義する / グッドプレーヤーを育 てるグッドコーチ			
	2	コーき	チングとは		コーチングの目的としての 4C's / プレーヤーズセンタード なコーチング			
	3	コーチ	Fに求められる役	割	指導者が負う責任と求められる役割/コーチの果たすべき 役割/ 安全なスポーツ環境の構築(予防)と問題発生時の対処法 /効果的な指導方法			
	4	ーツ排	- ツ事故における 旨導者の法的責任		スポーツ指導者が負う法的責任 / スポーツ指導者の負う注意義務(過失責任) / 具体的な注意義務 / 具体的な事故事案			
	5	ーツ指	-ツ事故における 指導者の法的責任		免責同意の有効性/スポ ツ事故のリスクマネジメント			
	6	コーラ スキル	Fに求められる知 レ	識と	コーチング文脈/専門知識/対他者の知識/対自己の知識			
	7	対他者	<b>首力を磨こう</b>		コミュニケーションスキル/非言語的コミュニケーション/ 言語コミュニケーション/ 5 W2H 等			
	8	対他者	首力を磨こう		ムワーク	プとは/リーダー		
	9	対他都	首力を磨こう		/効果的な伝	-ションスキル/情 え方/チームミーラ	ティング	
	10	対他都	首力を磨こう		ファシリテー え方	-ションスキル/状	況を把握/集[	団への配慮と伝
	11	対他都	首力を磨こう		その他対他者	ゴスキル/承認/傾耳	徳/カウンセリ	ングとは
	12	対他者力を磨こう				が/自己分析/自己理		
	13	対他都	首力を磨こう		コーチのセルフマネジメント/適切な覚醒水準/自己コント ロールする方法			
	14	対他者	<b>省力を磨こう</b>		さまざまな思 /自己効力感	考法や伝達方法/	植極的思考/1	台埋的思考方法
	15	対他都	<b>首力を磨こう</b>			いて/実際に成長		
	16	スポ	ツ仲裁			する粉砕解決と問 スポーツ仲裁機構		

		判所 ( CAS )
17	スポーツ倫理	スポーツ倫理が問題となる事案 / フェアプレーの精神 / スポーツの価値を体現すべきスポーツ指導者として
18	時代をリードするコーチン グ	女性コーチの活躍とスポーツを通した女性の社会進出/女性アスリートの障害と対策/スポーツによる精神障害と対策
19	心のトレーニング	スポ ツにおける動機づけ/目標設定
20	心のトレーニング	集中力/集中力が乱れる要因/集中力を高める方法
21	心のトレーニング	イメージトレーニングの効果/イメージトレーニングの方 法/実力発揮/競技力向上
22	心のトレーニング	あがり/プレッシャー/スランプ/他者観察/個人差を考慮し た指導/能力差を考慮した指導方法/学習理論
23	コーチング環境の特徴	ジュニア期のコーチングの留意点 / 年齢区分からみたコーチングの留意点 / トレーニングの至適年齢 /発育発達段階に応じた指導方法
24	コーチング環境の特徴	遺伝の影響 / 運動部活動でのコーチングの留意点/中学生・高校生の心理と運動の特徴の理解
25	コーチング環境の特徴	中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点/運動を継 続するためのアプローチ/TTM
26	コーチング環境の特徴	性別の考慮 女性の身体の特徴/摂食障害
27	コーチング環境の特徴	性別の考慮 性別・文化の考慮
28	ハイパフォーマンススポー ツにおける効果的なコーチ ング	ハイパフォーマンススポーツとは何か?/社会的な影響と 役割
29	ハイパフォーマンススポー ツにおける効果的なコーチ ング	ハイパフォーマンススポーツの本質~良き競い合い~
30	まとめ	振り返り/共有/総括

授業科目	     スポーツと指導者	担当 教員	吉田聡美		スポーツメンタル上級指導士/コ
1又来作口	スかープと指导者 (ドレー)	実務 経験	有:	無:	ーチングデベロッパー
対象年次・学期	1年・通年	担当 教員			
授業形態	講義及びこれまでの体験の共 有	実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	検定対策 〔PH1・TR1〕		担当教員	中根望	中根望			
対象年次・学期				必修・選択区分		単位数		
授業形態				授業回数		時間数		
授業目的								
到達目標								
テキスト・ 参考図書等								
	評価方法	去 評価	割合(%)		評価基準			
評価方法・	試験		0					
評価基準	レポート		0					
	小テスト							
	提出物		60					
履修上の 留意事項								
履修主題・	回	履	修主題		履修[	内容		
履修内容								

授業科目	検定対策	(PH1·TR1)	担当教員	
対象年次・学期			担当 教員	
授業形態			実務経験	
			担当教員	
			実務経験	
			担当教員	
			実務経験	
			担当教員	
			実務経験	
			担当教員	
			実務経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	
			担当教員	
			実務 経験	

授業科目	ストレ	ッチ〔A	√T1 • PH1)		担当教員	北村 浩人		
対象年次・学期	1年前期	胡		必何	多・選択区分	必修	単位数	
授業形態	実技				授業回数		時間数	
授業目的	基礎解語	剖学を理	里解し、直接人の	身体に	こ触れ筋肉の起	始停止にそって旅	術を行える。	<b>ようにする。</b>
到達目標	基礎解語	基礎解剖学を理解し、安全で的確に伸ばしたい部位にストレッチを行う事ができる。						
テキスト・ 参考図書等	パート:	ナースト	トレッチスタンタ	ブード				
	評価ス	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		0					
評価方法・	レポー	7	0					
評価基準	小テス	7	0	・ その他(受講姿勢、出席日数)を総合的に評価する。				
	提出物 0							
	その他		100					
履修上の 留意事項	各章に対しての出題							
	0		履修主題			履修!		
履修主題・ 履修内容	1		──	<del>-</del> の基	パートナーフ	履修		<b>.</b>
履修主題・		礎知證	ナーストレッチ				ヒ構成を学ぶ。	
履修主題・	1	礎知識 下肢ノ	〜ナーストレッチ 戦を学ぶ。	習	ハムストリン	ストレッチの特徴な	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ	ーチ。
履修主題・	1 2	礎知識 下肢 フ 下肢 フ	〜ナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技終	習	ハムストリン	ストレッチの特徴。 アグス、大腿四頭症	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ	ーチ。
履修主題・	1 2 3	礎知識 下肢プ 下肢プ 下肢プ	〜ナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技 <i>級</i> ストレッチ実技 <i>級</i>	習	ハムストリン ハムストリン 大殿筋、下版	ストレッチの特徴の ソグス、大腿四頭飼 ソグス、大腿四頭飼	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ	ーチ。
履修主題・	1 2 3 4	礎知語 下肢プ 下肢プ 下肢プ	〜ナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級	智	ハムストリン ハムストリン 大殿筋、下版 下肢全体への 今まで学んだ	(トレッチの特徴。 (グス、大腿四頭) (グス、大腿四頭) (関いのアプローランアプローチ復習。 で下肢へのアプロー	ヒ構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ	ーチ。 のアプローチ
履修主題・	1 2 3 4 5	<ul><li>礎知語</li><li>下肢</li><li>下肢</li><li>下肢</li></ul>	〜ナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級		ハムストリン ハムストリン 大殿筋、下版 下肢全体への 今まで学んた 践形式で施術	ストレッチの特徴。 グス、大腿四頭館 グス、大腿四頭館 と で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	と構成を学ぶ。	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6	礎知 下肢 下肢 下肢 下肢 下肢 下肢 下肢 下肢 下肢 下肢	トナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技 ストレッチ実技 ストレッチ実技 ストレッチ実技 ストレッチ実技 ストレッチ実技		ハムストリン ハムストリン 大殿筋、下版 下肢全体への 今までざんだ 践形式で遊んが 今まで学んだ	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭が グス、大腿四頭が といってプローランアプローチ復習。 で下肢へのアプロー でを行う。 で下肢へのアプロー でを行う。	と構成を学ぶ。	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6 7	礎知 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た た た た た た た た た た	トナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実践級 ストレッチ実践級		ハムストリン ハムストリン 大殿筋、下肢 下肢全体へが 大践形式でデルが 今ま形式で学んが 今ま形式で変形が 今ま形式でがあれた。 現形でで施術 のののののののののののののののののののののののののののののののののののの	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭が グス、大腿四頭が といってプローランアプローチ復習。 で下肢へのアプロー でを行う。 で下肢へのアプロー でを行う。	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ チ。 - チ方法を組 - チ方法を組	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6 7 8	礎知 下 下 下 下 下 下 下 下 た た た た た た た た た た た た た	マナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技終 ストレッチ実技終 ストレッチ実技終 ストレッチ実践終 ストレッチ実践終 ストレッチ実践終		ハムストリン ハムストリン 大殿ない、下版 下肢全体でででである。 大殿でででである。 大成でででである。 大成ででである。 大成ででである。 大成が、これでは、 大成が、これでは、 大のでは、 、のでは、 大のでは、 、 大のでは、 、 大のでは、 、 大のでは、 大のでは、 大のでは、 、 大のでは、 、 大のでは、 、 大のでは、 、 、 大のでは、 、 、 はのでは、 、 はのでは、 はのでは、 はのでは、 はのでは、 はのでは、 、 はのでは、 はの	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭が グス、大腿四頭が というのアプローを でアプローチ復習。 で下肢へのアプロー でを行う。 で下肢へのアプロー でを行う。 でで行う。	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ チ。 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ。	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6 7 8 9	礎知 財 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 た た し た し	マナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技終 ストレッチ実技終 ストレッチ実技終 ストレッチ実践終 ストレッチ実践終 ストレッチ実践終 ストレッチ実技終		ハムストリン ハムストリン 大殿筋、下肢全体の 今ま形まで式で式が 今ま形まで式がれた 大きのでででがいた。 大阪内のでは、 大では、 大阪内のでは、 大のでは、 たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと たっと	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭が グス、大腿四頭が がクローチ復習。 で下肢へのアプロー でを行う。 で下肢へのアプロー でを行う。 ででける。 ででします。 ででは、アプローチ。 ででは、アプローチ。	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ チ。 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ。 ストレッチ。	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	礎 取 肢 肢 肢 肢 肢 肢 肢 た 下 下 下 下 下 下 下 た た た し た し た し た し た し	トナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技統 ストレッチ実技統 ストレッチ実技統 ストレッチ実技統 ストレッチ実践終 ストレッチ実技統 ストレッチ実技統 ストレッチ実技統		ハムス 所 今 大 下 り かん が から 大 下 り 下 の の から 大 下 がら から	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭が グス、大腿四頭が グラス、大腿四頭が というのアプローを で下肢へのアプロー でを行う。 で下を行う。 でアプローチ。 でアプローチ。 でアプローチのアプロー でのに ででのに ででのに ででのに できている。 できている。	と構成を学ぶ。 筋へのアプロ 筋、大殿筋へ チ。 - チ方法を組 - チ方法を組 - チ。 ストレッチ。 - チ方法を組	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実 み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	ででは、 できまり できます できます できます できます できます できます できます できます	マナーストレッチ 戦を学ぶ。 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実践級 ストレッチ実践級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級 ストレッチ実技級		ハハス 大阪 大大 下 今践 今践 一 所 の た が 大 大 下 今 践 子 が 、	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭の グス、大腿四頭の グラストでは でアプローチ で下肢への。 で下肢へう。 で下肢でう。 でプローチ。 でプローチ。 でプローチのアプローチのでのに ででのに ででのに ででのに ででのに ででのに ででのに ででのに	上構成を学ぶ。 筋への一般筋の チ。 一チ方法を組 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ方法を組 ーチ方法を組	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実 み合わせて、実 み合わせて、実
履修主題・	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	ででは、 できまり できます できます できます できます できます できます できます できます	マナーストレッチ 域を学ぶ。 ストレッチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実技統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチチ実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践統 ストレッチを実践を ストレッチを実践統 ストレッチを実践 ストレッチを実践 ストレッチを実践 ストレッチを ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ ストレ・ スト・ スト・ スト・ スト・ スト・ スト・ スト・ スト		ハハ 大	ストレッチの特徴の グス、大腿四頭の グス、大腿四頭の グラストでは でアプローチ復習。 で下肢へのアプロー で下肢へのアプロー ででした。 でプローチ。 でプローチのアプロー でのでのでのでのでのでのでのででのででのででのででのででのででのででのででので	上構成を学ぶ。 筋へのの殿筋へ チ。 - チ 方 法を組 - チ ト レ カ 法を 組 - チ 方 法 を 相 - チ 方 こ 分 け で か に 分 け で か に か に か け で か に か に か に か に か に か に か に か に か に か	ーチ。 のアプローチ み合わせて、実 み合わせて、実 み合わせて、実

授業科目	ストレッチ〔AT1 ・PH1〕	担当教員	北村浩人		ストレッチトレーナー
技業行日	XFD9F (AIT FRIT)	実務 経験	有:	無:	X
対象年次・学期	1 年前期	担当 教員			
授業形態	実技	実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	各種評(	<b>価方法の</b>	D基礎〔トレ		担当教員	小倉 大生			
対象年次・学期	AT、M	T、PH1	年	必值	き・選択区分		単位数		
授業形態				授業回数		時間数			
授業目的	評価、	本授業では、アスレティックトレーナーとして必要な基本的な評価方法について学ぶ。身体機能評価、動作評価、フィットネス評価、スポーツパフォーマンス評価など、多角的な視点から評価技術を身につけ、実践を通じて理解を深めることを目的とする。							
到達目標	測定と	測定と評価に必要な知識・実技能力を習得し、現場で活動できる人材を育成する							
テキスト・ 参考図書等	公認 AT	公認 AT 専門科目テキスト 6(検査・測定と評価)							
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準			
	試験		50						
評価方法・	レポー			計論。	・小テスト・揺	業態度により総合	:的に評価し	<del>≢</del> <del>d</del>	
評価基準	小テス					ある場合には高評			
	提出物		20						
履修上の 留意事項	る) 解剖学( ペアワ・ んでく) 実技中(	授業中に評価を行うため、半袖、短ん				、必要に応じて復 ンを心がけ、相手 チを行う習慣を身	習を行ってくへの配慮を持	ください。 持って授業に臨	
履修主題・	回	+117	<u>履修主題</u> エンテーション・	<u> </u>	履修内容				
履修内容	1	紹介	Lファ <b>ー</b> ション・	ĦC	オリエンテーション・自己紹介・授業について				
	2	評価と	とは・姿勢評価		なぜ評価が必要なのか・アライメント評価				
	3	姿勢討	平価 ・身体組成		アライメント評価・身体組成の測定方法、意義、フィード バック				
	4	動的部	平価		様々な動作に対しての評価				
	5	関節引	也緩性評価		関節弛緩性の評価、改善エクササイズ				
	6	関節可	丁動域 (上肢)		関節可動域テ	・ スト ( 上肢 )			
	7	関節可	丁動域 (下肢)		関節可動域テ	-スト (下肢) 関	節可動域(」	⊏肢)小テスト	
	8	筋タ1 査	(トネス・徒手筋	力検	筋タイトネス ト	、・徒手筋力検査・	関節可動域	(下肢)小テス	
	9	1RM	測定		1RM 測定の	方法・換算法			
	10	体力す	テスト		体力テスト(	フィジカル測定)	の目的、方	法	
	11	体力す	テスト		高齢者に対し	ての体力テスト			
	12	動作部	平価		基礎トレーニ	ング動作評価			
	13	動作部	平価		スプリント動	か作に対しての評価	改善工ク	ササイズ	
	14	復習			前期総復習				
	15	テスト			前期範囲テス	<b>K F</b>	_		

授業科目	各種評価方法の基礎〔トレ1〕	担当教員	小倉大生		アスレティックトレーナー
JZXIII		実務 経験	有:	無:	
対象年次・学期	AT、MT、PH1 年	担当 教員			
授業形態		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当 教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			
		担当教員			
		実務 経験			

授業科目	健康づ 〔PH1〕		かの実際		担当教員	稲山 敬太		
対象年次・学期	1年・道	<b>通年</b>		必何	多・選択区分	必修・2 単位	単位数	
授業形態					授業回数		時間数	
授業目的	様の二・ この授詞 問わず詞 また、2	- ズに台 業では基 誰でも第 生活習慣	合わせたプログラ 基本となるエアロ 楽しく行える運動 買病の予防や改善	・ムが盛 ロビクス かとして まに効果	らんに普及され くのステップや この理解を深め そがあり、体力	ササイズとして広 ている。 コンビネーション ていく事を目的と の向上やストレス れる効果も実感す	の体験を通し する。 解消、そして	して、老若男女
到達目標	安全で効果的な動作や姿勢を学び、有酸素運動の習得と社会体育の指導者としての体力作りを目標とする。 また、グループで指導や発表をする事で指導技術を学び、 「伝える力」「表現力」「リーダーシップ」などの社会で必要なコミニュケーション能力を養う。							
テキスト・ 参考図書等	なし なし							
	評価が	方法	評価割合(%)			評価基準		
	試験		50					
評価方法・	レポー		0	グル-	- プでの発表 <b>今</b>	き かテストとする		
評価基準	小テス		10			講姿勢等で評価す	•	
	提出物		0					
履修上の 留意事項	運動着	での参加	ロ(ジャージ、ス'	ウェッ	ト、短パン、T	指導者に必要な指 シャツ、トレーナ セーターは認めな	)。	<b>翼する。</b>
<b>园协</b> <del>计</del> 旺		7 1.1.WI	履修主題	, , , ,		<b>履修</b>		
履修主題・ 履修内容	1	オリコ	ニンテーション		授業内容・形式、施設の利用法、諸注意等の説明/W-up・ C-down			
	2	班分に	ナテスト		クロールによる能力テスト			
	3	クロ-	-ル		水泳の基本姿勢・キック・ストローク			
	4	クロ-	-ル		キック・ストローク			
	5	クロ-	-ル		呼吸動作・コンビネーション			
	6	クロ-	-ル		呼吸動作・コンビネーション・ターン・能力テスト			
	7	平泳き	Ę		キック・スト	ーローク		
	8	平泳さ	Ĕ		キック・スト	-ローク		
	9	平泳さ	Ĕ		キック・スト	・ローク		
	10	平泳さ	Ę		キック・スト	・ローク・コンビネ	ペーション	
	11	平泳さ	<u> </u>		キック・スト	・ローク・コンビネ	ペーション	
	12	平泳さ	Ĕ		キック・スト	・ローク・コンビネ	ペーション	・能力テスト
	13	クロ-	-ル・平泳ぎ		クロール・平	☑泳ぎ(20m・40n	n )	
	14	クロ-	-ル・平泳ぎ		クロール・平	☑泳ぎ(20m・40n	n )	
	15	着衣才	· <b>以</b> 永		着衣水泳・安	全水泳		
	16	オリコ	ニンテーション		自己紹介。 エアロビック	が式、諸注意等の記 アダンス体験。		19 . 4.
	17	基本重	か作の習得		· ·	・ップタッチ、V ス ッグカール、ニーリ		· ·
	18	基本重	か作の習得		2人1組で行	iう。		
	19	ウォー	-ミングアップに	つい	ウォーミングアップの目的や効果について。			

	T	++++++++++++++++++++++++++++++++++++++
	て。 基本動作を組み合わせたコ ンビネーションで動く。	基本動作を組み合わせたコンビネーションで動く。
20	グループでコリオ作成。	5~6 人のグループで振り付けを考える。
21	練習。 発表会。	グループで発表会。 この発表会を小テストとする。
22	ローインパクトとハイイン パクト	ローインパクトとハイインパクトの違い。 ハイインパクトも体験する。
23	テストのコリオを習得。	テストのコリオを習得。
24	テスト対策	テストの流れについて
25	テスト対策	グループ練習 対面指導 背面指導 指導位置 隊形の変化など
26	テスト対策	グループ練習
27	テスト対策	グループ練習
28	テスト対策	グループ練習
29	テスト	レポートと実技
30	テスト	レポートと実技

授業科目	健康づくり運動の実際〔PH1〕	担当教実務経験	
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	
授業形態		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当教員	
		実務 経験	
		担当 教員	
		実務 経験	